

中国と日本を結ぶ季刊誌

# かけはし

季刊 2017年冬・新春号  
2018年3月20日発行(第2巻第4号)

**中日平和友好条約締結40周年  
記念の年を祝う2つの音楽イベント 北京で開催**

**“加書”を語り継ぐ花 平和の花として中日を結ぶ  
～合唱朗読構成「紫金草物語」作詞者・大門高子さんに聞く～**

**CRIスタッフ 私の春節の過ごし方**

# かけはし

季刊 2017年冬・新春号  
2018年3月20日発行(第2巻第4号)

## 目次

### お便り募集のお知らせ

「かけはし」では読者の皆様の投稿を受け付けております。番組や冊子の感想のほか、中国旅行の思い出、エピソードなどをお便り・Eメールでお寄せください。

あて先

E-mail: riyubusns@126.com

郵便(中国): 100040 中国国際放送局日本語部「かけはし」編集部

- 02 CRI日本語放送  
2017年のあゆみ
- 04 中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時  
一年間の放送を振り返る ……劉非
- 06 CRIインタビュー ……王小燕  
“加害”を語り継ぐ花 平和の花として中日を結ぶ  
～合唱朗読構成「紫金草物語」作詞者・大門高子さんに聞く～
- 08 北京暮らし ……劉叡琳  
北京の町巡り「望京」
- 09 CRI日本語放送・北京放送OB・OGは今 ……王小燕  
吉村澄代さん
- 10 百家姓物語 「安」 ……張怡康
- 11 日本で実践!中国語 ……張怡康・梅田謙  
春節スペシャル
- 12 あなたの知らない ……周莉  
パンダあれこれ
- 13 中日平和友好条約締結40周年 ……趙雲莎・梅田謙  
記念の年を祝う2つの音楽イベント 北京で開催
- 16 話 はなし 晰 HANASHI ……李順然  
冬の愉しみ
- 18 イチオシ中国映画・中国音楽 ……関亦冰  
映画編:空海—KU-KA I—など 音楽編:跳舞的梵谷/囀
- 20 日本人スタッフのつぶやき ……森雅継  
中国人の妻と過ごした年末
- 22 CRIスタッフ  
私の春節の過ごし方
- 24 中日交流カフェ ……梅田謙  
「笹川杯2017」上海で開催  
工学院大学孔子学院より ……高橋恵子
- 26 新語で知る中国事情 ……謝東  
キーワードチャイナ
- 28 新番組「チャイナビジョン2018」のご案内
- 29 新年番組配信のお知らせ

## 14 2018年度「CRI紅白歌比べ」



表紙の写真

1986年オープン of 石景山遊楽園は庶民に愛される遊園地。春節に開かれる「洋風縁日」は国際色豊かな屋台や催し物など、楽しみが盛りだくさん。誰もが童心に返って笑顔になる、幸せな新年のひとつが見られた。(撮影:梅田謙)

### 「かけはし」編集委員会

発行人 王丹丹

編集人 趙雲莎

編集 梅田謙 森雅継

潘 圓 王 帥

### かけはし編集部

中国北京市石景山区石景山路甲16号

中国国際放送局日本語部内

電話 +86 10 6889 1272

E-mail riyubu@cri.com.cn

URL japanese.cri.cn



# 新年のごあいさつ

■王丹丹 中国国際放送局 東北アジア中央アジアセンター副主任兼日本語放送部部长

新年明けましておめでとうございます。

新たなスタッフと新たな体制で始まった「かけはし」も、あっという間に3年目を迎え、「光陰矢の如し」という言葉の意味を今一度しみじみと噛み締めております。ラジオ、インターネットに次ぐ3つ目のメディアでもあり、弊部の事業多角化の試みの一部でもある本誌は、おかげさまで様々な形で皆様のお手元に届き、弊局をご存知でなかった方々との出会いを育んで参りました。今後も文字通り、本誌を架け橋として、より多くの皆様との出会いが生まれますようお願いしてやみません。

その『かけはし』を育んで来た3年間、これまで以上に業務に追われ、1日1日と時間が過ぎ行く中にあっても、僅かずつながらも多くの変革を行って参りました。そうした新たな時代に向けた変化の種子の一つ一つが、まだ見ぬ新たな友人の皆様との出会いの架け橋として成長すべく、今まさに根を張りつつあります。こうした数々のトライアルにつきまして、一つ一つ実を結ぶように業務に取り組んでまいりますので、これまで以上に私ども日本語部の活動にご期待をいただければ幸いです。

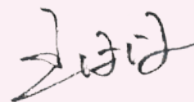
さて、皆様ご存知のように、中国では、昨秋に開催された中国共産党第十九回全国代表大会の成果を基礎に、政治・経済ともに目に見える動きが生まれつつあります。また、今年は中日平和友好条約締結40周年に当たり、中日間での活発な動きも期待されております。こうした大きな節目を

一度に迎える中で、開局77年目を迎えた私ども中国国際放送局、そしてその第一声を発した部局である日本語部では、弊局の理念である「中国立場、世界眼光、人類胸懐(中国から、世界へ、人類のために)」という視点から、よりスピーディーに、より細やかに中国の動きを伝え、日本のリスナーの皆様との架け橋となるべく思いをめぐらせております。今後も、何を・どこに・どう伝えるか、皆様のお役に立つコンテンツとは何か、また、私たちはどうあるべきなのか、そうした思いへの答えとしての様々なコンテンツを制作し、日々絶えることなくお届けする事で、時代のニーズに応えうる存在であり続けるよう、努力してまいります。

いつか、私たちのこうした努力が、中日間の溝を埋め、中国と日本の間でのわだかまりを解き、日本のリスナーの皆様に必要な中国の姿を知っていただけるよう、そして、中国のリスナーの皆様にも日本についてより多くの魅力を知っていただくようお願いしつつ、新たな心構えで、より一層の精進を重ねていく所存です。

末筆ながら、読者の皆様のご健勝を祈念しつつ、新年も引き続き弊部へのご指導ご鞭撻を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

祝 各位新、老朋友新年愉快!




■王丹丹(おう・たんたん)

1997年入局。

2001年から2003年まで、日本駐在特派記者として東京勤務。帰国後、記者、キャスター、番組編集者などを担当。2005年、ラジオ番組「ポプラが語る物語——中国にある唯一の日本人集団墓苑」が「中国報道賞」金賞を受賞。2009年から2013年まで人事部に配属。2013年、日本語部部长に就任、現在、東北アジア中央アジアセンター副主任兼日本語部部长。

## CRI日本語放送 2017年の歩み

■1月7日 年間企画「国交正常化45年の歩み——あの日、その時」放送開始(毎週土曜)

■1月25日 「CRI紅白歌比べ」40周年記念特別企画「中日歌唱コンテスト」ラジオ投票の結果発表  
▶ 紅1875票、白1821票、引き分け112票で紅組が勝利



■2月24日 春恒例の「さくらリポーター」募集開始

▶ 中日両国から100通以上の投稿が寄せられる



■3月5日 第12期全国人民代表大会第5回会議開幕、李克強首相の政府活動報告をCRI日本語放送が文字で生中継  
▶ 李陽記者が現場で取材(～15日まで)

■3月24日 リスナー歴約30年の群馬県甘楽町・茂原荘一町長が来局  
「日本の自治体職員在中國 加油!」のコーナーにゲスト出演

■3月25日 CRI敷地内の桜が満開  
▶ 「長野県北京放送を聞く会」と「長野県中国語を学ぶ会」が1996年に寄贈

■3月31日 CRI公式アプリ「China News」「China Radio」「China TV」配信開始



■4月5日 水曜放送の「中日交流カフェ」が王洋、梅田謙のコンビでリニューアル

■4月6日 「ハイウェイ北京」(木)に新コーナー「中国暦」、「56の民族、56の花」がスタート(孟群&星和明)

■4月8日 中国伝媒大学にて「大中物産杯日本語弁論大会」開催  
▶ CRI日本語放送が後援  
▶ 審査員に王小燕アナ、司会は劉叡アナ



■4月15日 「一帯一路」国際協力サミット開幕  
▶ 習近平国家主席の基調講演を日本語で文字中継



■4月19日～24日 東京都立美術館で『和して同ぜず』東北アジア書画展2017を共催  
▶ CRI、CRI online書画チャンネル、全日本中国水墨画芸術家連盟、日中協会

■4月20日 『かけはし2017年春号』発行、ホームページでもデジタル版を配信

■4月23日～29日 『陝西省の発展と未来』—2017CRI外国人記者 陝西省取材の旅  
▶ 梅田 謙記者と張強記者が参加



■5月24日 89歳の山根敏郎団長率いる長野県日中友好協会訪中団13名が来局

■5月27日 第8回全国高校生日本語スピーチコンテストが開催 CRI日本語放送が後援  
▶ 北京市・世紀劇院国際会議ホールにて 高橋恵子アナが審査員として参加

■5月31日 高橋恵子アナが契約期間満了で本帰国(2011年5月に赴任)  
▶ 現在は工学院大学孔子学院院长として活躍



■6月25日～7月2日 映像企画「CRI中国農村の旅」に張怡康アナと李陽記者が参加  
▶ 河南省信陽市羅城村、郝堂村などを取材

■1月～12月 レギュラー番組「CRIインタビュー」、日本国自治体国際化協会(CLAIR)との共同企画で新潟県、山梨県、徳島県、横浜市、鳥取県、茨城県、鹿児島県の職員を取材  
同時に、大学生向け「オープンスタジオ」を実施(聞き手:王小燕)



- 7月3日～24日 第18回党大会以降の緑化の成果を取材する「(グリーン発展・グリーン生活) 陝西省のグリーン発展の道」に趙雲莎記者が参加(西安市、韓城市など)
- 7月28日 「国際善隣協会日中国交正常化45周年北京市・甘肅省訪問ツアー」一行10人が来局座談会を開く



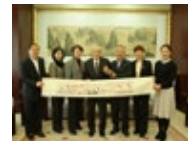
- 8月15日 森雅継が日本人職員としてCRI日本語放送に入局
- 8月18日～9月1日 大矢健一先生率いる長野工業高等専門学校の生徒14人が「実務訓練」のため来局(4回目)
- 8月24日 清華大学漢語研修班で学習中のフェリス女学院大学の学生9人が来局
- 8月25日～30日 民族文化宮で『和して同ぜず』東北アジア書画展2017北京開催
- 8月28日 中日友好大学生訪中団・日本人大学生代表100人が来局 胡邦勝副台長との交流会に参加



- 9月3日 日本短波クラブ(JSWC)が人気放送局に関するアンケート調査を実施  
▶ CRI日本語放送は全短波局、定時日本語放送実施局の部で共に2位(「ハムフェア2017」にて実施)
- 9月6日～12日 長野県短期大学学生18人が来局、語学研修を実施
- 9月10日 北京外国語大学と共催で「中日歌唱コンテスト」開催  
▶ 特別ゲストに谷村新司さん
- 9月18日 広島大学の学生28人が来局



- 10月1日～11月12日 愛知県一宮市木曾川資料館にて「第13回私の収集した北京放送・中国国際放送局切り紙展」実施  
▶ CRIリスナー歴34年の杵本直正さんが主催
- 10月8日～15日 リスナー歴65年の97歳・神宮寺敬さん(山梨県甲府市)が長女・次女と共に恒例の北京訪問  
▶ 9日にCRIにて任謙副編集長と会見後、日本語部で交流会
- 10月18日 中国共産党第19回全国代表大会が開幕、習近平国家主席の報告を日本語で文字中継  
▶ 王穎穎記者が現場で取材(24日まで)



- 11月18日 首都師範大学で「第12回広島大学日本語作文スピーチコンテスト」開催  
▶ CRI日本語放送が後援、審査員に梅田謙。前日にCRIにて星和明アナが参加者に発声を指導
- 11月20日 『かけはし2017秋号』発行、ホームページでもデジタル版を配信



- 12月3日 CRI開局76年。日本語放送も76年に
- 12月5日 日本のメディア関係者(共同通信社、読売新聞、NHK、TBSなど)による訪中団約40人がCRI訪問、座談会
- 12月13日 南京大虐殺犠牲者の国家追悼式典実施、CRI日本語放送が文字で生中継
- 12月15日 スタッフ出演による年末の恒例番組「紅白歌比べ」を収録
- 12月25日～26日 福建省で中日与党交流協議会第7回会議実施、劉非アナが取材



## ■数字で見る2017年

日本の47都道府県から寄せられたお便り、メールの総数は約**5400**件

【CRI日本語】SNSのフォロワーが**210万**人に(Facebook、Twitter、YouTube、Weibo、WeChat)

『北京の表情』:ビデオカメラで捉えた**12**人(組)の日本人のリアルな表情

「CRIインタビュー」:日本の自治体国際化協会(CLAIR)との合同企画で、新潟県、山梨県、徳島県、横浜市、鳥取県、茨城県、鹿児島県などの関係者**12**人を取材。同番組の大学生向け「オープンスタジオ」にのべ**100**人が参加



## 中日国交正常化45年の歩み——あの日、その時 最終回

### 一年間の放送を振り返る

■劉非

中日国交正常化45周年にあたる2017年、CRIでは特別番組「国交正常化45年の歩み——あの日、その時」を毎週土曜日にお送りしてきました。その最終回にあたる第51回では、それまでの50回の内容を総括するとともに、今後の中日関係の展望に目を向けました。

#### 番組で紹介された6回のハイレベル訪問(カッコ内は放送回)

##### 鄧小平副総理の日本訪問(第7回)

1978年10月22日から29日まで、鄧小平副総理が、中国の指導者としては戦後初めて正式に日本訪問を行いました。鄧小平は卓琳夫人と共に皇居を訪れ、昭和天皇、皇后と和やかに話し合い、天皇主催の昼食会に臨み、その席上で「中日両国は子子孫孫、世世代代、友好的に付き合い合っていくべきです」と述べると、天皇は「日中両国がこのような友好関係を打ち立てたのは、歴史上はじめてのことで、いつまでも続くことを願っています」と言葉を続けたということです。



##### 天皇皇后両陛下の中国訪問(第37回)

1992年10月23日、明仁天皇が特別機で北京空港に着陸しました。これは日本の天皇による史上初の訪中でした。



##### 朱鎔基首相の日本訪問(第28回)

2000年10月12日から17日にかけて、朱鎔基元首相が日本を正式訪問しました。訪問期間中は天皇陛下と会見したほか、森喜朗首相と会談し、日本各界の人々とも幅広く交流しました。その中で、最も注目されたのが、テレビを通じた日本市民との直接対話でした。



##### 温家宝首相の日本訪問(第15回)

2007年4月12日、日本政府の招待に応じた温家宝首相が、国会議事堂で「友情と協力のために」をテーマに演説しました。中国の首相が日本の国会議事堂で演説するのはこれが初めてであり、1983年の胡耀邦中国共産党中央委員会総書記、1985年の彭真全人代常務委員長の訪日以来、22年ぶりの中国指導者による国会演説でもありました。



##### 胡錦涛国家主席の日本訪問(第18回)

2008年5月6日から10日まで、胡錦涛国家主席が日本を公式訪問しました。胡主席が自ら「暖春の旅」と名付けたこの訪問は、ちょうど中日平和友好条約締結30周年という節目の年に当たりました。5日間の訪日期間中、胡主席は明仁天皇と会見し、福田首相と「戦略的互惠関係の包括的推進に関する中日共同声明」に調印しました。



## ■まず吊り橋が、そして鉄橋が架けられた

2017年1月7日から12月30日までにお送りした中日国交正常化45周年を記念する特別番組では、鄧小平副総理の日本訪問、天皇皇后両陛下の中国訪問など、ハイレベル訪問についての話題を6回取り上げました。20世紀の1970年代末から今世紀初めにかけて行われた中日首脳がハイレベル訪問を通じて相互理解と友情を温めてきた様子を振り返りました。その他の回では、中日貿易三原則の決定や中日航空協定の署名といった経済面の出来事をはじめ、スポーツ、映画、ドラマ、音楽、農業、環境保全など、様々な分野で展開されてきた両国の交流をご紹介します。

この45年間の歩みを振り返ってみると、2007年9月に福田康夫元総理が当時の温家宝首相に宛てた中日国交正常化35周年の祝電の言葉が思い浮かびます。

「35年前の日中共同声明により両国間に吊り橋が架かり、日中平和友好条約により鉄橋が作られました。その後、日々多くの両国国民がこの橋をわたり続け、様々な分野において目覚ましい交流と協力が進められていることは喜ばしいかぎりです」

今日においても、両国の大勢の人々が、日々この橋を歩き来しています。

## ■国交正常化がきっかけとなった、両国の進展

国交正常化以降、中日の経済、貿易、人文交流は著しい進展を遂げてきました。1972年、双方の貿易額は10億ドルほどでしたが、2016年には2748億ドルにまで達しています。人の往来は1972年のころはわずか1万人でしたが、2016年にはのべ800万人を上回るようになりました。また、中国はアメリカに代わって、日本最大の貿易パートナーとなっています。

この45年という歳月に思いを馳せる時、現在の中日関係は数多の先人達の努力の上にあることを改めて気づかされます。私たちは、こうした先人達の長期的な展望を持つ勇氣と英知に敬意の念を表するとともに、彼らの思いと精神をしっかり受け継ぎ、この大切な中日関係を次の世代につないでいかなければなりません。

## ■今後の中日関係の展望について

2018年は「中日平和友好条約」締結40周年の節目です。今後の中日関係で最も重要なのは、両国にとって共通した利益や東アジアの恒久的な平和と協力に合致する点を、前向きな姿勢で見出ししていくことです。

2008年の中日共同声明では、両国は「互いに協力のパートナーであり、互いに脅威とならない」と確認しています。こうした考えの下で、引き続き手を携えて、大局的な観点から、あらゆる分野で協力と交流を進め、安定した友好関係を築いていくことがとても大切です。最近、中日の首脳が度々会見し、両国間の意思疎通のパイプも徐々に回復しています。次の一步は、双方が高度な歴史的使命感、政治的責任感を持って両国関係を全面的に回復させるよう努めることです。

また、今後両国は、二国間あるいは多国間の協力関係を向上させることに努めながら、貿易・投資面の交流を促進させ、「一帯一路」の枠組みの下での協力のあり方を含む、具体的な行動やプロジェクトの進め方についても検討すべきです。それと同時に、第三市場での協力についても、そのあり方を模索しなければなりません。そのほかにも両国は、経済構造の改革という差し迫った課題を共に抱えているため、その解決に向けて民間企業間の具体的な協力が欠かせません。

2014年末、習近平主席は「協力共栄」を核心とする新型国際関係の理念を提出すると同時に、アジア運命共同体、さらに人類の運命共同体の構築を推進するよう呼びかけました。

中日両国間が新たな関係を築くために遵守しなければならない原則として、「平和安定、相互尊重、良性競争、互惠共栄」という言葉がカギを握ることになるでしょう。

2017年放送の「中日国交正常化45周年特別企画『国交正常化45年の歩み—あの日、その時—』(全51回)

放送日	期号	題名	出演	放送日	期号	題名	出演
1	1月7日	鄧小平 国交正常化の「吊り橋」	劉非	27	7月15日	朱内海 中国の緑化事業における両国の協力	劉非
2	1月14日	馬前 1971年シンポソウ外交	劉非	28	7月22日	劉非 朱朝基元首相、TBSで100人の日本の市民と対話	劉非
3	1月21日	王紹雄 中日民間交流の歴史—総論	劉非	29	7月29日	劉非 中日平和友好条約の締結	劉非
4	2月4日	王洋 中日民間交流の歴史—発展	劉非	30	8月5日	岡本 日本からの友好使者—ドラえもん	劉非
5	2月11日	王小南 中華人民共和國と日本、本格外交のスタート—前編	劉非	31	8月12日	劉非 中国のファンに愛されるスター「高倉健」	劉非
6	2月18日	西園 中華人民共和國と日本、本格外交のスタート—後編	劉非	32	8月19日	劉非 731部隊のドキュメンタリー放送	劉非
7	2月25日	任春生 鄧小平副総理の日本訪問	劉非	33	8月26日	劉非 和して居て争う—東北アジア書展2017北京	劉非
8	3月4日	康笑 中日国交正常化の歴史	劉非	34	9月2日	劉非 日本の「経済の巨人」作家・渡辺淳一	劉非
9	3月11日	王洋 スクリーンで結ばれた友好の絆—前編 中野良子「君よ懐しの川を渡れ」	劉非	35	9月9日	劉非 中日間のパンダ外交を振り返る	劉非
10	3月18日	劉非 スクリーンで結ばれた友好の絆—後編 高倉健と渡辺淳一	劉非	36	9月16日	王紹雄 45周年記念セレブション	劉非
11	3月25日	朱内海 スキー交流で結ばれた中日の絆—前編	劉非	37	9月23日	劉非 天皇皇后陛下の中国訪問	劉非
12	4月1日	劉非 スキー交流で結ばれた中日の絆—後編	劉非	38	9月30日	劉非 中日間の人的往来における変化	劉非
13	4月8日	岡本 中日両国のスポーツ交流「中国戦馬大相撲」	劉非	39	10月7日	王小南 貿易や投資活動に代表される両国の経済交流	劉非
14	4月15日	劉非 中日スポーツ交流「女子バレー—大相撲文化展」	劉非	40	10月14日	劉非 駐日記者相互交流の経緯や両国の報道機関の交流	劉非
15	4月22日	劉非 盧世豪 盧世豪訪日時の日本訪問「友を結びつなぐ」	劉非	41	10月21日	任春生 生涯中日友好に捧げた夢と志	劉非
16	4月29日	劉非 中日を豊かでつなぐ「女子二重奏」	劉非	42	10月28日	劉非 中国の発展と協力	劉非
17	5月6日	劉非 田中角次元外相の中国訪問	劉非	43	11月4日	劉非 こころの中日外交の歩み	劉非
18	5月13日	劉非 胡錦濤国家主席の日本訪問「国交の絆」	劉非	44	11月11日	朱内海 「日本の美」文化展示会と李夢蓮さん	劉非
19	5月20日	劉非 震災を通じた協力「EPA1大地震と東日本大震災」	劉非	45	11月18日	劉非 国書外交	劉非
20	5月27日	王紹雄 3000人規模の「日中現代文化交流展」中国訪問	劉非	46	11月25日	王洋 チャイナフェスティバル2017	劉非
21	6月3日	王小南 中国で愛されるスイカ「東京一号」日本人農業技術者・森田欣一の夢と志	劉非	47	12月2日	岡本 2017年日中交流ハイライト	劉非
22	6月10日	西園 中日間の「ピンポン外交」の歴史	劉非	48	12月9日	劉非 80年代に中国人に人気を博したテレビドラマ	劉非
23	6月17日	任春生 国交正常化と深く結びついた日本の政治家「松村謙三」	劉非	49	12月16日	劉非 中国における日本のベストセラー	劉非
24	6月24日	康笑 天津と神戸の友好都市締結	劉非	50	12月23日	劉非 中日両国文化交流	劉非
25	7月1日	王洋 陸奥国列島中国—津軽と南信濃の領	劉非	51	12月30日	劉非 国交正常化45年の歩み—あの日、その時—を振り返る	劉非
26	7月8日	劉非 砂楽緑化の研究者「山田正徳」	劉非				

※過去の放送はCRF公式サイトで視聴いただけます。

### ■劉非

(りゅう・ひ)

1996年入局。

ニュースアナや「ビジネス中国語講座」を担当。2009年日本語部副部長、2010-2012年長野ラジオ孔子学堂初代中国側責任者、2013年日本語部を離れ、北東アジアセンター編集室で海外世論の収集と編集を担当。2015年-2016年信州大学へ国費留学、2017年5月日本語部に復帰。2014年訳書「ジャーナリズム実践入門」を出版。受賞番組は「日本戦犯が撫順戦犯管理所に戻る」、「北京オリンピックカウントダウン1周年」など。





# “加害”を語り継ぐ花 平和の花として中日を結ぶ ～合唱朗読構成「紫金草物語」作詞者・大門高子さんに聞く～

■王小燕

「紫金草」は中国では「二月蘭」、「諸葛菜」という名で知られる。旧日本軍陸軍衛生材料廠長だった山口誠太郎が南京・紫金山のふもとでこの花を見て、戦争の残酷さと激しいコントラストをなした美しさに心癒され、花の種を日本に持ち帰る。戦後、侵略戦争を悔やみ、犠牲となった人々の鎮魂と平和への思いを花に託して、「紫金草」と名づけて各地に種を蒔き続けてきたことが、由来だ。

この実話に基づいた合唱朗読構成「紫金草物語」が1998年、大門高子作詞、大西進作曲で完成した。その後各地に「紫金草物語」を歌う合唱団が結成され、国内のみならず、南京、北京、上海、台北、ニューヨークなど、これまでに12回にわたった海外公演も。日本で名づけられた「紫金草」は今や平和の花として、中日を結ぶ新しい絆になっている。

## 大門高子(おおかど たかこ)さん

作詞家。1945年栃木県生まれ。日本軍による南京大虐殺の史実に迫る合唱朗読構成「紫金草物語」の作詞に続けて、絵本「むらさき花だいこん」などを出版。これまでに作詞した作品の数は500に上る。



## “加害”の歴史と向き合い、戦争の悲しさと恐ろしさを伝えたい

生後10日にして、米軍の空襲に遭い、「火の中を母親に抱かれて辛うじて生き延びた」ことが、大門さんの戦争原体験だ。

「花が好きで、歌も好きな人」として育ち、大学で植物学を専攻。卒業後に小学校の教師になり、「教え子を再び戦場へ送るな」という教育実践の中、「被害」のことだけを考えていて良いのだろうか」と悩んでいた。その時、新聞のコラムで話題になった「花大根談義」で紫金草の由来を知り、それが“加害”について語ってきた花

だったと気づき、種を持ち帰ったという山口誠太郎さんの存在を尋ね続けた。

茨城県在住であることをつきとめ、訪ねあてた時には、誠太郎さんはもう帰らぬ人になっていた。取材を20年間続ける中で、父の遺志を継いだ長男の山口裕さんが、医学生時代に召集を受け、広島呉の海軍学校で傷病兵の治療に当たっていたことを知る。原爆投下の翌日には広島市に入り、被害の惨状を体験、自身も二次被曝をして、「いつ発症するか恐怖を覚えた」という体験をもつ人だった。

大門さんは、「誠太郎さんが南京で見た花の様子に、日本軍が侵略していったときの様子などを重ねて、このことを伝えようと思って『紫金草物語』を創作した」と話す。

「戦争はいかに人間性を壊すものか。もちろん殺されるのは悲惨の極み。しかし、加害者のほうも戦争の悲惨さと被害を持つ。そのような戦争の悲しさ、恐ろしさをみんなが共有しなければ、この世の中から戦争がなくなる」と、作品に込めた思いを語る。

## 南京に届けたい、命の燃え尽きるまで歌う



第1回中国公演(2001年3月24日～30日) 198名で訪れた大虐殺記念館

1998年に、合唱朗読構成「紫金草物語」は東京都足立区で初ステージを迎える。約300人の観客を前に、小学校教師が中心のメンバー約50人が歌っている。

開演前に右翼の妨害に遭ったが、涙を終えて涙を流す人や、「よくぞ書いてくれた」、「日本人は中国人にきちんと謝罪す

べきだ」などと感想を書き残した観客がいた。打ち上げの時、「ぜひ中国でも演奏してください。皆さんのような日本人もいることを伝えてほしい」と二胡担当の中国人奏者が言う。当時、大門さんは母親を介護する身で、長く家を空けることができなかったが、「とにかく勉強して届け

ていなくてはならない」という一途な思いで、作曲者など5人ほどで初めて南京を訪れる。その成果の一つが、初の南京公演の実施だった。

2001年3月末、紫金山が一面の二月蘭の花に覆われた季節に、東京、金沢、大阪、仙台など各地から集結した198人からなる紫金草合唱団が南京を訪れた。

「とにかく何があっても、めげずに歌いましょう。来場者の一人でも感動したら、大成功だと思ってください」

不安を抱えながらのスタートだったが、いざ演奏が始まると、一緒に歌い出した人、ハンカチで目頭をおさえる姿がそこそこにあった。海外公演の一回目を飾った南京公演は、「とても心に残る、胸に迫った取り組みだった」と大門さんは振り返る。



団員の中には、「寝たきり婆さんになるよりも、出たきり婆さんになる」といって、80歳で活動に参加した人や、「この歌を歌わないことには、あの世にいけない」と病院から駆けつけてきた人も。高齢者が

多く、20年近く活動を続けると、「どんどん亡くなっていく方もいるので、心痛むことも、淋しい思いもありますが、『あの世に行ってから合唱団を作って紫金草を歌い続けよう』、『紫金草老人ホームをつ

くろう』と意気盛んで、励ましあって元気に歌い続けていきたいなと思っています」と、老いにくじけぬ力を漲らせる。

## 南京で広がる紫金草の輪、「物語」は綴り継がれる



生存者と小学生が共に紫金草を描く、2016年3月、大虐殺記念館内で行われた「紫金草手描き行動」の様子(新華社資料写真)

18年あまりの地道な取り組みが成果を实らせ、「紫金草」という言葉は今では中国でもすっかり定着している。「侵華日軍南京大屠殺遇難同胞紀念館」の一角には、「紫金草の花園」があるほか、館長の呼びかけで「紫金草手描き行動」など市民向け行事も開催されてきた。2016年12月に、諸外国の功労者を表彰する「紫金草国際平和記念章」にも使われている。さらに2017年4月、『紫金草』と題した長編

小説が、南京を拠点とする出版社から刊行された。南京のジャーナリスト、陳正栄が紫金草をめぐる一連の取り組みに心打たれ、書き下ろしたものだ。日本の加害を語り継いできた紫金草の花は、今や平和の花として、中日を結ぶ新しい絆になっている。

中国では2014年以来、旧日本軍が南京を占領した日である12月13日に、国家主催の大虐殺犠牲者追悼式典が行われている。大門さんによると、合唱団はそれ以前から毎年のように南京を訪れ、追悼式典にも参加し、鎮魂の歌を捧げてきたという。中でも75周年のときは1万人式典のフィナーレで南京の市民合唱団と共に「平和の花紫金草」と「愛で世界を包もう」という歌を献歌したそうだ。

2018年も紫金草の花が満開になる頃、大門さんは再び南京へ行く。同市対外友好協会主催のコンクールに寄稿した「歌が好き 花が好き 平和が好き」と



いう大門さんの文章が、江蘇省でも一等賞になり表彰されるためだ。「中国は過去を恨むだけではなく、未来に進んでいくという姿勢を大事にしている。この取り組みを今後も積み重ね、南京は平和都市として、世界中に平和を発信してほしい」と大門さん。

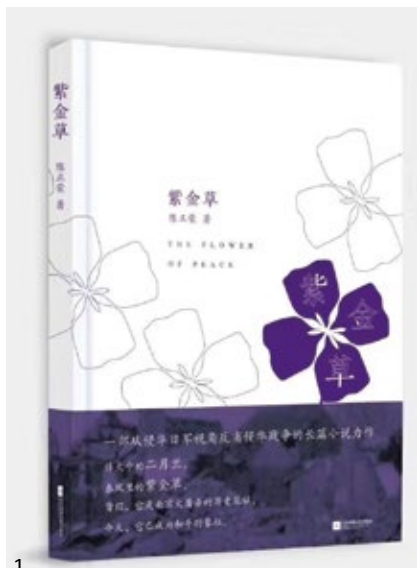
その上で「真の和解には、まずは事実を知ること。歴史をしっかりと学ぶことの中に、未来への夢がある。日中だけではなく、世界中の人がこれをめぐって語り合えるよう共に努力していかなければ」と力強く呼びかける。

■この記事は2017年12月13日放送の「CRIインタビュー」の内容を再構成したものです。番組はスマートフォン用アプリ「CRI日本語」のネットラジオでお聞きいただけます。



■王小燕  
(おう・しょうえん)  
1999年入局。

日本語ワイド番組「ハイウェー北京」では火曜日を担当。「CRIインタビュー」のコーナーでは、両国交流の最新事情をめぐり、各界を代表するゲストにじっくりお話を伺います。



1



2



3



4

1. 陳正栄著『紫金草』、江蘇文芸出版社、2017年4月  
2、3. 南京では紫金草の花をモチーフにした様々なバッジが作られ、市民に配布されている  
4. 館内の平和公園に立つ、日本人有志寄贈の「紫金花の乙女」像



## 北京暮らし～北京の町巡り「望京」～

■劉叡琳

このコラムでは、ガイドブックには載らない市民の生活エリアをご紹介します。

北京市の面積は1万6800平方キロで、日本の四国4県とほぼ同じ、東京都のおよそ8倍にあたります。16の区と2つの県からなり、人口は2017年末現在で2170万7000人となっています。

数ある住宅エリアから、今回は「望京 (Wàngjīng)」地区をピックアップしましょう。

望京は、市街地北東部にあり、北京空港から車で15分ほどです。人口はおよそ30万人、その3割が韓国人で、北京の「コリアンタウン」と呼ばれています。ここでまず目につくのはハングル文字の看板です。お店に入ると、店員さんは「アンニョンハセヨ」と迎えます。中華街など異国の人が暮らす地区はありますが、望京はかなりの規模で、10万人近い韓国人が住んでいるとのこと。

このため、韓国人向けの学校や病院、デパート、レストランなどがそろい、ここ

は本当に韓国のお国です。もし中国で中華料理に飽きたら、この望京で本場韓国の味を楽しむのもいいですね。また店の商品も趣が違い、韓国の食材や服、日用雑貨が手に入ります。チマチョゴリなど民族衣装もありますよ。明太子やおでんまであるので、日本人にとっては嬉しいのではないのでしょうか。おでんは韓国語でも「おでん」といい、味噌なども売っています。

こうしたコリアンタウンができたのはなぜでしょう。韓国人は海外へ行く場合、現地に骨をうずめる覚悟を持ち、また駐在

員も長期間滞在するので、おおむね家族で移住します。そして、韓国企業は社員もほぼ韓国人であり、コミュニティーが徐々に形成され、広がっていったようです。リーダー格のみを派遣し、一般社員はほぼ現地採用である日系企業とはだいぶ違いますね。

この望京ですが、このところサムスン、シーメンス、パナソニック、ヒューレット・パカードなど、通信関連を中心にグローバル企業が拠点を設け始めています。空港に近いこともあり、50～60万人規模の町を目指して再開発が行われています。渋滞問題に悩まされる北京では、このような人口の分散化が進められています。現在は市の中心に達する地下鉄が2本あり、交通も便利になりました。

最寄駅は地下鉄14号線と15号線との望京駅です。ぜひ足を運んでみて下さい。



■劉叡琳

(りゅう・えいりん)

2002年入局。ニュースキャスターのほか、毎週月曜日の番組を担当。

「ライフマガジン」やネット更新中の「いきいき中国」で、最新のライフスタイルから、昔ながらの懐かしい暮らしまで、「生」の中国をお届けしています。

雲南省出身。北京第二外国語大学大学院日本語専攻修了。





# CRI日本語放送・北京放送OB・OGは今 ②

## 久しぶりに中国を訪れて

吉村澄代(よしむら・すみよ)

大阪外国語大学中国語学科卒業。京都府立高等学校教諭の後、京都大学大学院教育学研究科で中国の教育政策を研究。2001年～2005年CRIに勤務。現在、日中友好協会京都府連合会常任理事、同左京支部機関誌『友誼』編集長。

著書に『素顔の中国』(かもがわ出版 2007)。共訳書に『大学財政—世界の経験と中国の選択—』(東信堂 2007)、『日中教育学対話 I』(春風社 2008)、『同II』(2010)、『同III』(2010)など。



去年12月11日から15日まで、江蘇省人民対外友好協会の招待による日中友好協会関西ブロック訪中団の一員として、久しぶりに中国を訪問した。

訪問先は、蘇州、揚州、南京で、これまで何度か観光で訪れた地であるが、かつてとまるで違う姿がそこには展開されていた。江南の水郷地帯の風情は残しつつも、林立する高層ビル、IT産業の集積する郊外、農村の新しい家並みなど、ますます発展する中国を目の当たりにした。蘇州市で最初に見学した、2010年に12人で設立された企業は、今では4500人の従業員を擁する企業に成長し、自動車部品の変圧器、減速器などのオートシステムの開発で大きく発展しているという。案内する若い担当者もよどみなく専門用語を駆使して説明してくれる。自信にあふれた中国の明日を感じた。

市街地で発展が進む一方で、蘇州や揚州の風光明媚な観光資源も保護されており、昔ながらの江南の水郷地帯が広がっているのはうれしかった。揚州の瘦西湖は、庭園の中に湖があるのか、湖の中に庭園があるのかわからないぐらい庭園と湖が

渾然一体となっている。水郷を生かした広大な一帯は観光客を飽きさせない。瘦西湖のそばの名刹・大明寺は、日本との関係の深い鑑真和上が住職をしていたということで、日本人も多く訪れるとのことだ。

今回の招待には大学訪問もあり、揚州大学と南京大学の日本語科の 학생さんと交流が行われた。こちらの訪問団は60代や70代の高齢者が多いので、若い学生さんたちとの交流に話がかみ合うかどうか不安であったが、お茶のお点前を披露したら、さすがに日本文化への関心も高いようで、熱心に見入っていた。また、学生さんたちにも体験してもらったところ、大喜びであった。中国の学生さんは物怖じしないし、何でもやってみようというチャレンジ精神が旺盛なのが気持ちいい。

を駆使した大型ディスプレイが目をつけた。新たに見つかった日本人兵士の日記の実物などは、虐殺の史実を客観的に証明するものであり説得力がある。「前事不忘、後事之師(過去の事を忘れず、将来の戒めとする)」をキーワードに、平和を願う記念館でありたいとする副館長の陳俊峰さんの言葉は日本人としてしっかりと受け止めねばならないと思った。



このような見学や観光以外で目に留まったのは、日本でも紹介されているシェア自転車だ。街角の至る所に整然と並んでいる。しかし、今回はあまり利用者を見かけない。代わりに、寒さよけの布団状のカバーで前を覆った電動自転車が颯爽と走っていた。免許が要らないのでバイクよりも人気があるとのこと。庶民の交通手段も日に日に進化しているようだ。

このような盛りだくさんの見学や訪問、連日の歓迎会での交流などで、ますます確実に未来に羽ばたいている中国を感じた。ただ、スーパーをのぞく、街角で人々とおしゃべりする、といった私の楽しみがでなかったのがちょっと残念だった。

- 1.揚州大学でのお茶のお点前を楽しむ学生たち
- 2.南京大学で日本の友好運動等を紹介する
- 3.南京大虐殺記念館での献花
- 4.蘇州や揚州の街で大人気の防寒用布団付きの電動自転車



博物館、記念館などの展示についても、これまでとは違うものを感じた。南京市博物館は、中国六朝の都・南京の華やかな歴史を紹介しており、それほど大きくはないけれど、展示されている文物は一級品とのこと。地下では、清朝末期の街並みを再現し、京劇のミニ劇場や店舗を常設して、見学者が実体験できるコーナーもあり、参加型の展示となっている。南京大虐殺記念館は、日本軍による南京大虐殺から丁度80周年ということで大幅にリニューアルされ、立体的な展示やIT技術

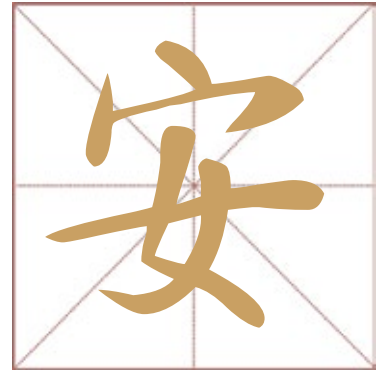
中国の苗字を知る

# 百家姓物語

■張怡康

書籍『百家姓』は、子供らに漢字を教えるために馴染みのある姓を504集めた学習書の1つで、北宋(960~1127年)の初めころに成立したとされます(諸説あり)。「趙錢孫李周呉鄭王…」とリズムカルにはじまり、中国の代表的な姓が記されています。

このコーナーでは、『百家姓』から取り上げた中国の苗字を紹介します。



## 安(ān)

使用人口:170万 人口ランキング:110位

新たな年を迎えるに当たって、人々が最も願うこと、それは「今年も一年、家内安全・健康に過ごせますように」ということですよね。という事で、今回は安全の「安」という苗字についてご紹介します。

安姓の由来の多くは、実は外国に関係しています。まずは、パルティア王国(中国語名:安息国、現在のイラン)です。東漢時代のこと、パルティアの皇太子は国王になることに興味を示さず、彼の関心はもっぱら仏教の研究に向かっていた。そのため、西暦148年から中国の河南省で生活

するようになり、仏教の研究と宣教に没頭しました。パルティア皇太子は「安清」という中国名を名乗って中国に定住し、やがて彼の子孫や侍従たちの子孫も「安」さんとして中国で暮らすようになりました。

もう一つの由来は、スルー王国(中国語名:蘇祿国、現在のフィリピン)に関するものです。記録によりますと、当時スルー王国の国王が家族と侍従を連れて中国を訪問し、明の皇帝より盛大に歓迎され、両国の交流が始まったとされています。残念なことに、国王はその帰国中、中

国の山東省で病に倒れ、他界しました。2人の王妃と第三王子の安都魯(音訳)は、亡き王の側にいることを望み、そのまま中国に残りました。こうして、その子孫たちが「安」さんになったということです。

最後はロシア帝国(中国語名:俄羅斯帝国、現在のロシア連邦)です。ロシア帝国からの侵略者のうち、捕虜となった一部の兵士が、「これからは戦争を起こすことなく、中国で安定した暮らしを」という意味を込めて「安」という姓を与えられたのだそうです。

### 「安」姓の有名人①——安禄山



安禄山(703-757)は、唐の大規模な反乱——「安史の乱」を引き起こした元凶として、世に悪名を残した唐の軍人です。10年近く続いたこの反乱は、唐の全てをひどく破壊しました。その後、安禄山は目の病が悪化し、完全に失明しながらも大燕皇帝に即位しました。しかし、その凶暴な性格で次男に恨まれ、2年後に殺害されました。

### 「安」姓の有名人②——安金藏



安金藏(?-711)は、忠義の臣として有名な人物です。中国史上唯一の女帝・則天武后が皇帝であった頃、当時の皇太子・李旦が反乱の濡れ衣を着せられました。安金藏は皇太子の潔白を証明するため、「私が心臓を差し出すことで無実を証明する」と宣言し、自らの腹を切りました。その行為に衝撃を受けた則天武后は、皇太子の無実を認めたのでした。ちなみに、

勇気と忠義によって皇太子を救った安金藏は、直ちに治療を受けさせられ、一命を取り留めています。



■張怡康  
(ちょう・いーかん)

2014年入局。初めて日本語に触れたのは1997年。日本語部では主にラジオ番組、SNSプラットフォームの管理、映像番組(ネット)を担当。中国語講座番組「日本で実践!中国語」では、「日本で中国人と出会った時に使える中国語」をお届けしています。

遼寧省出身。北京第二外国語学院日本語同時通訳専攻卒、ニューヨーク大学大学院修了。



# 日本で実践!中国語

## かけはし出張版 春節スペシャル

この講座番組では、日本で中国人と出会ったとき、どんな風に中国語で会話すれば良いかを一緒に勉強しています。

中国には「年越し」が2回あります。まずは日本と同じで、西暦の新年を迎える夜。そしてそれ以上に大切にされているのが、旧暦のお正月「春節」を迎える夜です。この中国人にとって最も重要な祝日には、どんなことをするのでしょうか。中国人のお友達と春節の話題を話せるようになりましょう。

「日本で実践!中国語」の第44課の内容を抜粋してお届けします。

ちょういーかん  
張 怡康



「春節の『年夜饭』作りが  
楽しみ!」

うめだ けん  
梅田 謙



「年明けは縁日に繰り出して干支のお面を買うのが楽しみ」

### 会話

Zài zhōngguó, xīnnián shì zhǐ nónglì xīnnián ba?

A: 在中国, 新年是指农历新年吧?

Shìde, nónglì de xīnnián jiào chūnjié.

B: 是的, 农历的新年叫春节。

Zài rìběn, chúxī huì chī kuànián qiáomàimian.

A: 在日本, 除夕会吃“跨年 荞麦面”。

Zài zhōngguó shì chī niányèfàn.

B: 在中国是吃“年夜饭”。

Zhōngguó yě yǒu gěi yāsuiqián de xíguàn ma?

A: 中国也有给“压岁钱”的习惯吗?

Shìde. Wǒmen yě jiào hóngbāo.

B: 是的。我们也叫红包。

Yuánlái yǒu hěnduō xiāngsì de guònián xíyù, yǒu yìsi!

A: 原来有很多相似的过年习俗, 有意思!

### 単語

nónglì  
农历

旧暦

zhǐ  
指

○○を指す

chúxī  
除夕

大晦日

kuànián  
跨年

年越し

guònián  
过年

新年を過ごす

qiáomàimian  
荞麦面

そば

niányèfàn  
年夜饭

年越しの料理

yāsuiqián  
压岁钱

お年玉

hóngbāo  
红包

お年玉

xiāngsì  
相似

似たような

xísú  
习俗

風俗・習慣

### 訳文

A: 中国では新年は旧暦でお祝いするんですね。

B: そうです。旧暦のお正月を春節といいます。

A: 日本では大晦日に「年越しそば」を食べます。

B: 中国では大晦日の食事を「年越しの料理」といいます。

A: 中国でも、「お年玉」をあげる習慣がありますか。

B: あります。お年玉を「红包」とも呼びます。

A: 似たような習慣がいろいろあって面白いですね。

### 構文: 有意思

★使い方①: (物や事を指す語句) + 有意思 = ~が面白い

★使い方②: 对 + (人を指す語句) + 有意思 = ~を気に入っている

「日本で実践!中国語」は以下の方法でお聴きいただけます。

☆Podcast iTunesや対応アプリで「中国語」「日本で実践」を検索。

☆CRIラジオ 毎週火曜日と金曜日に好評放送中!

☆Webサイト CRI公式サイトの「中国語教室」コーナーへお進みください。

URLはこちら→<http://japanese.cri.cn/15home/hanyu.htm>



# あなたの知らない パンダあれこれ いま気になる! 子パンダたち

■周莉

所変われば好みも変わる。でもパンダを可愛いと思う気持ちは世界共通でしょう。去年2月、成都のジャイアントパンダ繁殖研究基地で、笹の整理をしている飼育員の足に抱きつく赤ちゃんパンダの映像が大変話題になり、私はこれですっかりパンダにハマってしまいました。知られざるパンダの魅力をご紹介する本コーナー、今回は、赤ちゃんパンダについてご紹介します。

## 🐼 ネットインフルエンサーの「奇一」

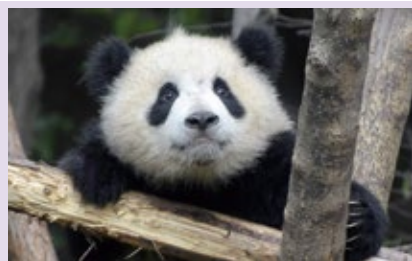
飼育員の足に何度も何度も抱きつく映像が話題となった「奇一(チーイー)」ちゃん。おとし7月1日に、双子の姉として生まれました。母親は「奇縁」といい、のちに和歌山のアドベンチャーワールドに行った梅梅(メイメイ)が中国にいた時に産んだ双子の妹です。「浜家熊」と言われる和歌山生まれのパンダたちと血縁関係にあるのです。



話題の映像は、「奇一」が9カ月ぐらいの時に撮影されたもの。「奇一」は飼育員の足に何度も抱きつきますが、仕事の邪魔!と、その都度遠くへ追いやられてしまいます。でもまたえっちらおっちらと寄ってきて、抱きつくのです。

この映像はFacebookで公開されたのち、数日で再生回数が1億7000万回を超え、「仕事の疲れが癒される」「かわいすぎ。飼いたい」「私も飼育員になりたい」などのコメントが寄せられました。

「奇一」は頭に何か長い毛があり、ネット上では「まるでWi-Fiルーターのよう」などとも言われます。また、急ぐ時に前足が同時に動く「ウサギ跳び」の姿、寝ている姿、体つきが角張って見える立ち姿などが話題となり、様々なニックネームがつけられました。木登りが好きな赤ちゃんパンダは、みんな飼育員の足に抱きつきたがる甘えん坊。ですが、「奇一」ほどの「じゃれっぷり」は

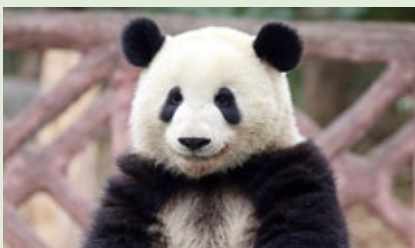


珍しいようです。

ところで、「奇一」は遊びすぎのせいか、体重が妹の「奇果(チーゴウ)」よりかなり軽いとのこと。いっぱい食べて丸々太ってほしいですね。

## 🐼 パンダ界のエリート 豪邸に暮らす「萌萌」

2015年に同じく成都の基地で生まれたオスの「萌萌(モンラン)」。この年、成都で生まれたほかのパンダはすべて双子で、「萌萌」だけが単胎でした。父親はアメリカ・アトランタ生まれの「美蘭(メイラン)」、母親是北京動物園に所属する「萌萌(モンモン)」で、両親の名前を1字ずつとって命名されました。



「萌萌」は、生まれた時から注目の的でした。というのは、両親が共に体毛が白く、ふわふわとした丸顔で、パンダ界屈指の美男美女だからです。特に母親の「萌萌」は、その名の通りの萌えキャラ・美女で知られています。その息子「萌萌」も、期待通りにまばゆい白い毛がたなびく美しさ。ぬいぐるみみたいですね。

「萌萌」は、2歳まで幼なじみの4頭と一緒に成都で暮らしていました。だいぶ成長しましたが、どこから見ても微笑んでいるような表情です。おやつを奪い合う時は恐れ知らずで奮闘しますが、仲間たちと遊ぶ時にいつも押し倒されるなど、ちょっとひよわそうにも見えます。

母「萌萌」は繁殖のため成都の基地にい

ますが、息子「萌萌」の所有権は、母の元々の所属先である北京動物園にあります。「萌萌」は去年9月21日に、仲間たちと別れて北京に移りました。市街地にある北京動物園で、広大な「豪邸」でまったりと過ごしています。「萌萌」が生んだ3兄弟の三男であることから、「西直門三太子」(地元のぼんぼん三男)と呼ばれています。「萌萌」は北京でも大人気で、姿を捉えた映像を毎日のようにアップする熱心なファンもおり、フィーバーが続いています。2歳になっても相変わらずの萌えキャラぶりで、ファンの心をくすぐっています。

## 🐼 上野動物園に誕生、 桃色の「香香」姫



去年6月、上野動物園でメスの「香香(シャンシャン)」が生まれ、大きな話題を呼びました。中国からも日本からも愛される「香香」は、12月19日に一般公開されました。

ハート型の目のクマや、母親譲りのピンク色の体毛が愛らしさを感じさせます。

「香香」の見学は現在、1日400組(最大2000人)に限定されており、公開当初は抽選倍率が最高で144倍になった日もあったとか。私も早く見てみたいです。



■周莉

(しゅう・り)

1998年入局。

ニュースデスクのほか、毎週木曜日の番組を担当。長年日本へ発信する第一線で積み上げたノウハウを生かして、聞き甲斐、読み甲斐のあるイキイキとした情報をお届けします!



## 中日平和友好条約締結40周年 記念の年を祝う2つの音楽イベント 北京で開催

1978年8月12日に中国の黄華外相と日本の園田直外相が北京で調印した中日平和友好条約は、同年10月23日に鄧小平副首相が日本を訪問し、福田起夫首相と批准書の証書を交わしたことで、正式にその効力を発生するようになりました。

それから40年後の今年、中日友好協会と在中国日本国大使館はそれぞれ、記念すべき年を音楽で祝福するイベントを開催しました。その模様をご紹介します。

### 両国ピアニスト「中日友好新年音楽会」を主催

中国人民対外友好協会、中国日本友好協会、河合音楽教育・中日友好交流基金の共同主催による「中日友好新年音楽会」が1月



14日、北京の天橋芸術センターで開催されました。元国務委員で中日友好協会の唐家璇会長、在中国日本大使館の横井裕大使をはじめ、約500人が来場しました。

プログラムは日本の女性ピアニスト・阿見真依子さんと中国の男性ピアニスト・孫健さんによる演奏を中心に生まれ、中日両国の子どもたちの合唱による「ジャスミンの花」、「四季の歌」がフィナーレを飾りました。

#### ピアニストの孫健さん：

「アジア、特に中国と日本のピアノの発展は目覚ましい。友好条約締結40周年という特別な年に、我々は音楽を通して、両国の文化交流を促進させるだけでなく、両国国民の友誼を増進させていける。若手ピアニストとして、中日両国の友好発展に力を尽くしていきたい」



#### ピアニストの阿見真依子さん：

「初めての中国でとても緊張したが、皆さんとてもフレンドリーに接してくれた。近い国同士である日本と中国が、音楽の分野で協力し合っ、もっと寄り添い、協力の体制を作れたらいいなど考えている。このような心が打たれる活動が、どんどん発展して欲しい」



### 山崎まさよし・竹原ピストル初の合同ライブが北京で実現

在中国日本国大使館が主催する中日平和友好条約締結40周年記念公演が1月20日、北京の未来劇場で開かれました。中国でも高い人気を誇る歌手の山崎まさよしさんと竹原ピストルさんが出演し、会場は約700人の観客で満席になりました。運営側の発表によりますと、そのうち約600人以上が中国人のファンであったということです。

前半に登場した竹原ピストルさんは全12曲を演奏。特に代表曲の「よー、そこの若いの」、「Forever Young」、「東京一年生」は、いずれも前奏が始まると客席から歓声が沸き起こりました。また、今回の公演が決まっすぐに近所の中国語教室に通い始めたという竹原さんは、演奏の合間に流暢な中国語を交えて挨拶していました。



山崎まさよしさんは、ステージ後半から登場。中国でもアニメ映画『秒速5センチメートル』の主題歌として知られ、中国語版カバー曲も存在する「One more time, One more chance」のほか、『映画ドラえもん新・のび太の日本誕生』の主題歌「空へ」、「セロリ」など9曲を、弦楽四重奏を率いて演奏しました。一部の楽曲では、タンバリンやボイスパーカッションの音をその場で録音・リピート再生し、それに合わせて演奏をするといったパフォーマンスも行い、観客を楽しませました。

アンコールでは2人が同時にステージに上がり、山崎まさよしさんの「ア・リ・ガ・ト」を共に演奏。音楽の先輩・後輩の関係にあるという山崎さんと竹原さんのツアーライブはこれが初のため、貴重な場面に立ち会った観客たちからは演奏後も長い拍手が送られました。



#### 竹原ピストルさん：

「(北京が題材の歌を)自然と作れるようになるまで通い続けてみたい。これからも、個人同士が仲良くしようという気持ち、国同士が仲良くあろうという気持ちにつながると信じて活動していく。また、中国語の勉強も歌も練習を頑張りたい」

#### 山崎まさよしさん：

「思っていたよりフレンドリーな反応がもらえて、『温かい』という印象を受けた。すごく救われた。(中国のファンに)今回のステージを機に日本のライブにも足を運んで欲しい、自分もまた中国に来て演奏したい」



デュエットでアンコール曲「ア・リ・ガ・ト」を披露する山崎まさよしさんと竹原ピストルさん

# 2018年度「CRI紅白歌比べ」

CRIのお正月番組と言えば、「紅白歌比べ」! 2014年の第37回大会からは一般の方々に出演していただいていたのですが、今年は大勢のリスナーたちのご期待に応えて、再び日本語部のスタッフが出演しました。番組担当は、白組キャプテンの星和明アナと紅組キャプテンで初登場するトントンのニューコンビでお届けしました。



白組:梅田謙  
「告白風船」



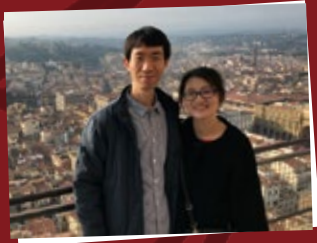
紅組:趙雲莎  
「ガラガラヘビがやってくる」



白組:森雅継  
「小さなエクボ」



紅組:劉叡琳  
「好きな人」



白組:斉鵬・李陽  
「笑顔」



紅組:張怡康・何凡  
「アニメソングメドレー」



白組:閔亦冰  
「夜曲」



ゲスト:森まり子さん(工学院大学孔子学院第6回  
日中友好カラオケ大会「最優秀歌唱賞」受賞者)  
「忘不了」



紅組:王丹丹  
「I LOVE YOU」

## 番組放送後のリスナー投票の結果、総合優勝は——紅組に決定!

星和明アナ:

私が入局してから初めて体験することになったCRIスタッフによる「紅白歌比べ」は、非常に和やかな雰囲気の中で行われました。普段、ラジオをお聴きの皆さんにとって、日本語部スタッフの歌声は新鮮だったかもしれません。白組からは私も含めて日本人スタッフも中国語の歌で参加しました。一つの空間で中国語と日本語の音楽と言葉が交流する空間は、温かい時間を感じるものでした。ただ、今回、白組は惜しくも敗れてしまったので、次回こそは白組の勝利、最優秀歌唱賞を目指します!

トントン:

初めて企画し、初めて務めた紅組キャプテンでした。責任感、緊張感、そして満足感をそれぞれ味わうことができ、とても勉強になりました。リスナーの皆さんからたくさんのメッセージが寄せられたことは何よりもありがたいと思っています。心から感謝の意を申し上げたいと思います。そして、今年の白組は本当に上手な方が多く、日本人スタッフたちの中国語もなかなかでした。紅組の皆さんがプレッシャーを感じながらも頑張ったことは素晴らしいです。来年も一緒に頑張りたいと思います。



また、個人賞の最優秀歌唱賞には、各組のトリを飾った2人が選ばれました。

## 最優秀歌唱賞2人へのインタビュー

### Q1.歌唱力の秘訣は？

趣味で音楽はずっと聴いていましたが、楽器などを専門的にやったことはないです。でも、放送局で受けるアナウンスの訓練に音楽と共通する部分があって、その影響はあると思っています。

### Q2.今年はどうな年になりたいですか？

番組内で歌ったあとでもコメントしましたが、2017年は自分にとって様々なことを考えさせられる年でした。今年は何事もなく、穏やかな一年になったらいいと思います。

関亦氷



王丹丹

### Q1.受賞した感想は？

皆さんにお褒めの言葉を頂いて、嬉しかったです！実力の方はまだまだ足りない部分が多かったと思いますので、もし次のチャンスがあるならば、今より進歩できるように練習していきたいです。

### Q2.今年の抱負を教えてください。

日本語部の部長として、今年はより豊富でよりリアルな中国の情報を日本のリスナーの皆さんに提供できるように頑張っていきたいと思います。

## 投票をしてくれたリスナーからのメッセージ

### ■愛知県豊田市 河村 博さん

毎年恒例のCRI紅白歌比べを楽しみました。毎年のことながら、スタッフの皆さんの言葉の壁を超えた歌唱力に驚いています。特にトリをつとめた王丹丹さんの「I LOVE YOU」は絶品で聞き惚れてしまいました。また、白組の関亦氷さんの選曲理由が素晴らしく感動しました。さらに、三回戦では新婚カップル同士の対決というユニークな対決もあり、なかなか興味深いものでした。

### ■山口県宇部市 対馬由美子さん

CRIの放送を初めて聴いてからちょうど35年になりますが、「紅白歌比べ」の投票に参加したのは今回が初めてです。昔はたしか「鉄腕アトム」が歌われていたと記憶しています。今回も、スタッフのみなさんが中国から歌声を電波に乗せて届けてくれました。歌って、人間的なものがそのまま表れますから、心に届いて温もりまで伝わってきます。とても良い企画ですね。これからもずっと続けてください。

### ■長野県塩尻市 小林秀行 (こばやし・ひでゆき)

CRI紅白歌比べを聞くことは、昨年からの新年行事になっています。みなさんの日本語が上手で採点に苦慮しましたが、3組目の新婚ペアの熱々デュエットと最後のCRI王子(関亦氷アナ)の甘い歌声で「勝負あり」ということで、自分的には白組の勝利でした。

「2018年度『CRI紅白歌比べ』の本放送および「結果発表」は以下のページでお聴きいただけます。

#### 2018年度「CRI紅白歌比べ」

<http://japanese.cri.cn/781/2017/12/21/Zt147s268129.htm>

#### ハイウェイ北京「中日交流カフェ・スペシャル」(2018年1月31日放送回)

<http://japanese.cri.cn/782/2018/01/31/141s269373.htm>

# 話 はなし HANASHI 噺

■文 李順然 ■写真 薛移

## 冬の愉しみ

北京の冬——骨を刺す寒さ、げんなりする長さ、でも北京っ子は明るい表情でこの冬を愉んでいます。とりわけ中国最大の民間の祝日である春節(旧正月・酉年の去年は新暦の2017年1月28日が元日)前後の二ヶ月ほどは家族ぐるみで冬を愉しむ微笑ましい風景が随所で見かけられます。

寒さのきびしいこの二ヶ月に入れ代わり立ち代わりやって来る、あれやこれやの大小の行事には、家や家族を主役にしたものが多く、これが家族の絆をふんわりと包み、温もりをもたらしてくれているのです。言うならば北京の冬を愉しくしてくれているのです。

こうした行事から幾つか拾ってお話しましょう。

## 腊八と「腊八粥」

「腊八」——腊(十二月)、八(八日)つまり旧暦の十二月八日のことです。去年は新暦の2017年1月5日でした。北京ではこの日の朝に「腊八粥」と呼ばれるお母さんが丹精込めて炊いてくれた熱熱のお粥を食べます。このお粥、米、粟、豆に加えて、その家の好みに応じて棗(なつめ)、胡桃、栗……などを入れます。正直言って、このお粥にどんな由来があり、どんなご利益があるか、この雑文を書くまであまり考えたことはありませんでした。

「腊八」にお粥を食べる——それにはこんな伝説があるそうです。一千年以上も昔のインドでの話です。仏教の開祖といわれるお釈迦様が苦行中に疲労困憊し倒れてしまいます。これを見つけた村の人が牛乳で煮たお粥を食べさせたところ、数日で元気を取り戻しました。そして近くの菩提樹の下で七週間座禅して悟りを開いたというのです。この日が「腊八」だったので、これ

を記念して仏教の寺院では「腊八」にお粥を炊いて善男善女に配るようになったというのです。ご利益の方は「無病息災」といったところでしょうか。

去年(2017年)の「腊八」には北京の名刹・雍和宮(1774年建立)でも大きな釜で炊いた「腊八粥」が善男善女に配られていました。薛移さんがこの日の雍和宮の様子を写真に撮ってきてくれました(写真①)。冬の陽の光をいっぱいを受けた境内では「善男善女もお坊さんもとても優しい表情だったよ。子供の手を引く母親の姿も目立っていた」と薛さんは話していました。



①「腊八」の日の雍和宮

## 「腊八」から始まる「年用意」

「年用意なおこまごまと主婦の用」——日本の俳句に「年用意」という季語がありますね。春節まであとひと月たらず、中国では「腊八」が、春節を迎えるあれやこれやの「年用意」の始まる日とされています。

この日にわたしの家では「腊八蒜」を作ります。蒜(ニンニク)の皮を剥いて酢を入れたガラスの瓶に漬けるのです。一週間もすると白いニンニクが薄いみどりになり、そして春節のころには濃いみどりに変わって、春節の餃子の宴に欠かせない添えものとなるのです。またこの日に水仙の球根を、水を張った水盤に浸します。そして毎日水加減、陽加減(陽に当てる時間)に気を

配って春節にうまく花を開かせるようにするのです。

このように「腊八」からは、あれやこれやと春節の準備に忙しい日が続きます。春聯(家の入口に張る赤い紙、墨で目出度いことばが書かれている)を新しい年のものに取り替えることも欠かせません。出不精のわたしも、わざわざ近くのデパートの春節用品専用売場に足を運び、春聯の山をあれやこれやひっくり返して一組買ってきました。家に遊びにきた薛移さんが入口に張ってあるこの春聯をみて「面白い」と言って写真を撮ってくれました。このページに載せておきましょう(写真②)。横書きの「平安和睦」は一目瞭然、縦書き七字の右は「睦まじい家の年寄り長寿」、左は「安らかな家には喜び事多し」といった意味のことば。一人で悦に入っています。

千年前の詩人、蘇軾(蘇東坡)と共に唐宋八大家に数えられる王安石(1021~1086年)が「元日」という詩で「総(すべて)新桃を把(と)りて旧符に換(か)える」と書いていますが、ここでいう「新桃」「旧符」は、みな春聯の前身です。千年の昔から、中国では旧い年を送り新しい年を迎えるたびに春聯を貼り換えてきたのです。新しい年に寄せる平安と和睦の願いを托して……。



② 我が家の春聯



## 大晦日の夜の爆竹

春節の最高潮は大晦日の夜です。この夜は一家が集まりおしゃべりをしたり、テレビを観たり、おふくろの味を中心としたお正月料理のテーブルを囲んだり、もちろんみんなで包んだ餃子も欠かせません。おもてからは賑やかな爆竹の音がBGMのように流れてきます。突然、このBGMがひときわ大きく、激しくなります。新しい年がやって来たのです。その到来を待ち受けていた連中が一齐に爆竹を鳴らし始めたのです。「除夜の鐘ならぬ除夜の爆竹」です。家の中からも外からも「新年好」「恭喜恭喜」「健康快樂」「万事如意……」といった新しい年を祝うことばがわき起こります。宋の詩人・王安石の前述の「元日」という詩でも詠われている「爆竹の声中一歳除す 春風暖を送って屠蘇入る」という千年前の風景が再現されるのです。

春節の定休は七日間、旧暦の大晦日から一月六日までで、去年は新暦の2017年1月27日から2月2日まででした。仕事ははじめの2月3日がちょうど立春にあたりました。立春も家中心のイベントがいろいろある日で、「身オフィスにあれど心家にあり」という日が続きます。家中心の立春のメインイベントは一家で春餅を食べることです。春餅——小麦粉を薄く伸ばして焼いた皮で具を包んで食べるものですが、具は肉やたまごのほか、もやし、蕪、胡瓜といった舌ざわりのいい、瑞々しい色と香りの春の野菜、まず舌から春を味わおうというのでしょう。巻き寿司のように長く巻いて包むのですが、具の種類、食べ方にはそれぞれのおふくろの味、おふくろの作法があり、食べると言わずに噛むという人もいます。まず長く巻いた春餅の両端を噛むのです。噛むといえば、立春には必ず大根を噛むという習慣もあります。春の訪れをしっかりと噛み締めるといえるでしょう。

## 満月・団子・フィナーレ

では、春節気分はいつまで続くのでしょうか。大方の見方は元宵節(旧暦一月十五日)、去年は新暦の2017年2月11日までで、ここで一区切りということになります。

元宵節には十五夜のまるい月の下で、月のようにまるい元宵と呼ばれるもち米で作ったお団子を一家揃って食べて平安和睦を願うのです。元宵節の夜の爆竹の響きは、大晦日のそれに引けをとらないものです。爆竹を鳴らせるのは、この日の夜までという自粛期限があるからかも知れません。

しかし、大晦日の夜にしる、元宵節の夜にしる、昨今の爆竹の「騒音」はいささか度を超えているような気がします。北京での暮らしの長かった中国の文豪・魯迅(1881～1936年)は、北京っ子の性格を「重厚」と讃えています。この「騒音」には「重厚」さはあまり感じられません。北京大学などで音楽を教えていた中国音楽界の鬼才・劉天華(1895～1932年)は、大晦日の夜の北京で友達や学生と膝を交えて語りあった愉しみを即興で作った「良宵」という名曲で讃えています。この「騒音」には「良宵」の明るい楽しさはあまり感じられません。

まあ、わたしを慰めてくれているのは、春節の爆竹についてわたしと同じような考え方の人の輪が広がっていることです。大晦日の夜に、元宵節の夜に、「重厚」が「良宵」が戻って来る日も、そう遠いことではないでしょう。

### ——ひとこと——

北京市政府は、爆竹の規制強化を決めています。2018年の春節の爆竹がどんなものになるか、大いに期待しています。

このコーナー、この辺で小休止することにしました。雑文・拙文にお付き合いくださり、ありがとうございます。



■李順然(り・じゅんぜん)

中国国際放送局日本語部に50年勤続したOB。趣味は本、雑誌、新聞などの「雑覧」。



■薛移(せつ・い)

日本語部でリスナーとの交流・連絡を担当。この道一筋三十数年。趣味は旅行、北京散歩。





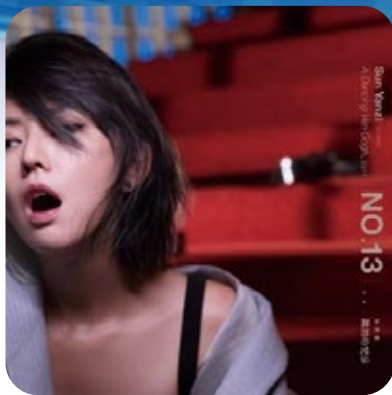
# イチオシ! 中国映画 中国音楽



## ■ 閔亦氷(みん・いひょう)

音楽や映画、生活などさまざまなジャンルの番組を手がけ、10年以上ラジオのパーソナリティとして活躍。2015年から日本語部映像担当プロデューサー。カメラを通して中国の最新情報と魅力を発信しています。

北京出身。北京外国語大学日本語学科卒。



## 跳舞的梵谷 (A Dancing Van Gogh)

孫燕姿 (ステファニー・スン)

発売日: 2017年11月9日

シンガポール出身で、中華圏のトップ・ディーヴァの一人として知られる女性シンガー、孫燕姿(ステファニー・スン)が3年ぶりとなる待望の13枚目のアルバムをリリース。

タイトルの「踊るゴッホ」が示すのは、今作のテーマである「理性と狂気」。今までに見せなかった自らの多様な個性をさらけ出し、これまでで最も自由奔放でアーティストィックな作品に仕上がっています。

また、中華圏音楽シーンのトップ制作陣が結集し、タイトルナンバー「跳舞的梵谷(A Dancing Van Gogh)」や詩的な展開が堪能できる「我很愉快(A State of Bliss)」など、異なる美学を盛り込んだ10曲を収録しています。



## 恩 (EN...)

李榮浩(リー・ロンハオ)

発売日: 2017年11月17日

中華圏で大注目のシンガーソングライター、李榮浩(リー・ロンハオ)が、怒涛のシングル8連発リリースを経て、それらを網羅したベストアルバムともいえる4枚目のフルアルバムをついにリリース。

1985年7月に安徽省で生まれた李榮浩は、2013年9月に『模特(モデル)』という作品で念願のアルバムデビューを果たし、2014年には同アルバムで台湾金曲獎の最優秀北京語アルバム賞、作詞賞、アルバムプロデューサー賞、男性歌手賞、新人賞の主要5部門にノミネートされました。新人賞を手に入れた才能溢れるミュージシャンでありながら、流行にも敏感で音楽に特別な感性を持っており、ソウルミュージックにR&Bといった西洋音楽と中国的要素の融合も心掛けてきたことから、日本の業界でも一目置かれる存在となっています。本作には、「恩」「就這樣」など、先行シングルとして話題を集めたナンバーを含む全10曲を収録。





空海—KU-KAI—  
(中国題：妖猫伝)

公開日：2017年12月22日  
監督：陳凱歌(チェン・カイコー)  
主演：染谷将太  
黄軒(ホアン・シュアン)  
張雨綺(キティ・チャン)  
秦昊(チン・ハオ)

大注目の中日合作映画は陳凱歌監督の怪奇ファンタジー。原作は、『エヴェレスト 神々の山嶺』『陰陽師』など、多数の著作が映像化されているベストセラー作家・夢枕獏の『沙門空海唐の国にて鬼と宴す』です。7世紀の中国唐代が舞台で、遣唐使として中国に渡った若き日の空海と、そこで知り合った友人であり詩人の白楽天と共に一連の事件を探る中で、やがて歴史が生み出した巨大な謎と対峙するという物語となっています。

キャストिंगでは、日本からは主演作『寄生獣』などで中国でも知られている染谷将太が主役である若き日の空海を演じており、中国からは若手人気俳優の黄軒が唐代の詩人、白楽天役を担当。そのほかにも、中国の張雨綺(キティ・チャン)や秦昊(チン・ハオ)、日本の阿部寛ら実力派が勢ぞろいしています。日本では2018年2月24日に封切られました。



芳華  
(Youth)

公開日：2017年9月30日  
監督：馮小剛(フォン・シャオガン)  
主演：黄軒(ホアン・シュエン)  
苗苗(ミャオ・ミャオ)  
鐘楚曦(チョン・チューシー)  
楊采鈺(ヤン・ツアイユー)

2017年に最も期待された中国映画の一つ、馮小剛(フォン・シャオガン)監督の最新映画『芳華(Youth)』。脚本は『金陵十三釵』(2011)や『妻への家路』(2014)などの張芸謀(チャン・イーモウ)作品でも知られる小説家の嚴歌苓が担当。同作品は1970年代の激動の中国を舞台に、理想と激情に溢れる軍隊の演芸団=文工団の少女少女たちが、運命に立ち向かいながら成長していく姿を描く人間ドラマとなっており、主演は人気若手俳優の黄軒(ホアン・シュエン)のほか、馮監督に見出された新人女優の苗苗(ミャオ・ミャオ)、鐘楚曦(チョン・チューシー)、楊采鈺(ヤン・ツアイユー)といったフレッシュな顔ぶれ。また、嚴歌苓と馮小剛は初タッグではありますが、2人共若い頃に文工団に所属していた経歴を持つことから、思い入れの強い作品に仕上がっています。



奇門遁甲  
(The Thousand Faces of Dunjia)

公開日：2017年12月15日  
監督：袁和平(ユエン・ウーピン)  
主演：大鵬(ダーポン)  
倪妮(ニー・ニー)  
李治廷(アーリフ・リー)  
周冬雨(チョウ・ドンユイ)

中華圏で武術指導の大御所としても知られる袁和平(ユエン・ウーピン)監督がメガホンを取り、あの徐克(ツイ・ハーク)がプロデュース&脚本を担当するアクション大作。中国古代を舞台に「奇門遁甲」という占術に精通した様々な剣士たちが結集し、宇宙からやって来る妖怪を退治するため奮起する本作は、中国式のスーパーヒーロー映画と言っても過言ではありません。個性あふれるヒーローたちを演じるのは喜劇で活躍中の大鵬、張芸謀(チャン・イーモウ)監督作品『金陵十二釵』(11)で鮮烈なデビューを飾った倪妮、香港を拠点に活躍中の李治廷、こちらも張芸謀監督作品『サンザシの樹の下で(原題：山楂樹之恋)』(10)でデビューした女優の周冬雨、それに台湾出身のロック歌手と音楽プロデューサーの伍佰(ウー・パイ)。このような多彩なキャストिंगにも注目が集まりました。



日本人スタッフの  
**つづき**  
 在中日本人の生活日記  
 ■森 雅継

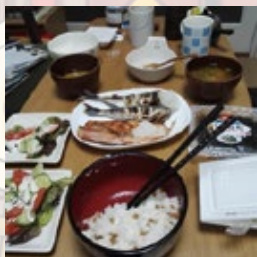
**中国人の妻と  
 過ごした年末**

こんにちは、CRI日本人スタッフの森です。前号に引き続いての登場で大変光栄です。

昨年8月にCRIに仲間入りして、初めての新年を迎えました。そして北京生活ももうすぐ13年となり、公私ともども充実させていきたいと張り切っています。

一昨年に中国人女性と結婚し、昨年は2度にわたり一緒に日本へ温泉旅行に行きました。前号で書いた通りに春に愛媛・道後温泉に行き、そして12月には義母と3人で熱海へ行きました。まず、その熱海への温泉旅行について報告しましょう。

中国語に「百善孝為先」ということわざがあります。「親孝行がなにより」という意味で、中国では家族や親戚付き合いをととても大切にします。こうした中国の習俗を覚え、妻たちより一足先に帰国して、横浜市に住んでいる年老いた父親に手料理を作ったりしました。



手作りの日本料理  
 メニューは焼き魚、味噌汁、納豆、  
 生野菜など

その後、妻たちと合流して、私の実家で近況について語り合ったり、記念写真を撮ったりしました。



左が父で中央上が私  
 その下が小学校1年生の姪、右が妻

それから、妻と義母と3人で熱海に行き、温泉旅館に3泊しました。義母は初めての海外旅行でしたが、露天風呂や和風バイキング朝食などを体験して、とても充実した様子でした。天候にも大変恵まれて、妻と一緒に海辺を散歩したり遊覧船に乗ったりして、楽しく過ごせました。また、この間に妻の誕生日を迎え、ささやかながらサプライズプレゼントを渡しています。



温泉旅館の屋上より 太平洋の海が見える

その後、横浜に行って、3人で山下公園や中華街を散策しました。



左から義母、妻、私  
 横浜・山下公園にて

ご存知の通り、ここ数年中国人の訪日者が急増していますが、妻も義母も日本式のサービスやおもてなしにととても満足した様子でした。ホストを務めた私としては、ぜひリピーターとなって、どんどん日本を好きになってほしいと願っています。

そして、年末の30日に、妻の両親と夕食を共にしました。義父は日本語が達者で、いつも私を日本語で迎えてくれます。義父母は共に日頃から運動をしているので、とても健康です。そのせいか、マラソン愛好者である私をととても高く買ってくれているようです。このところ妻も走り始めており、共通の趣味をぜひ続けてほしいと願っています。





12月30日、義父母とともにホテルのレストランで夕食

なお中国では、年末年始は日本ほど盛大には祝わず、休みも元旦を含む3日間のみです。中国語で「小长假」と言われる3連休が1年に5回ありますが、その中でも冬場の寒い時期であるこの正月連休が、一番静かに過ごす休みです。中国では年越しは旧暦に従っており、例年1月もしくは2月に帰省ラッシュや新年のお祝いを行います。また国土が広いので移動が大変で、地方出身者はかなりの時間を費やして帰省することから、休みも1週間以上になります。

日本でも、1980年代ごろまでは夜行列車でふるさとへ帰るといった光景が普通でした。東京で生まれ育った私は、冬場に上野駅で雪をかぶった機関車がホームに滑り込んでくる姿を見て、とても感動したものです。しかし自動車が普及した今は、家族連れなどを中心にマイカーでの帰省が中心となっているようです。一方、中国でも、車の所有率や高速鉄道の運行距離が年々上昇し続け、窓から列車に乗りこむなどと言ったひどい帰省ラッシュも過去のものとなりつつありますが、それでも客車列車に24時間以上揺られて里帰りするのはごく普通です。ちなみに日本人は（私も含めて）鉄道好きな人が多く、ぜひ中国で「汽車旅」を楽しんでいただきたいと思います。

中国語に触れてからもう30年以上たちましたが、語学学習は尽きることがないので、今年も翻訳や通訳の仕事を実践させるため、妻と「互帮互学」(＝相互学習)しながら一段とキャリアアップしていきたいと思っています。また、市民ランナーとして引き続きハーフマラソンなど各種のレースで全力を尽くしたいと思います。

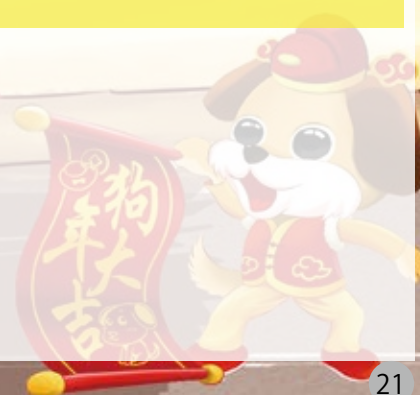


12月31日、北京市内の公園にて この日は22km走った



■森 雅継(もり まさつぐ)

1968年8月生まれ。早稲田大学商学部卒業。2005年に日本の会社を退職し北京へ。中国企業に6年間勤務し、2011年よりフリーランスの翻訳・通訳。この8月にCRIに入局。中国語のニックネームは“阿森(アーセン)”。





# CRIスタッフ ～私の春節の過ごし方～

旧暦のお正月「春節」といえば、中国で最も大切にされている祝日です。この期間は約一週間の連休になるため、多くの人々が帰省をし、家族と一緒に年越しをします。ところが、同じ年越しでも具体的な過ごし方、食べるもの、風習などは地域によって全く違うのが、広い中国の面白い所。今回は、出身地の異なるCRIスタッフ4人に、それぞれの春節の思い出や体験を聞きました。



## 「年夜饭」の手作り餃子とはまらない美味しさ

星和明 (アナウンサー、北海道出身)

中国では新暦の大晦日から元旦は普通に日を跨いだだけという雰囲気がありますが、旧正月の年越しは中国全体で待ちに待った新年を感じることができます。毎年、旧暦の大晦日は、CRIの中国人スタッフの自宅に招いてもらって「年夜饭」と呼ばれるご馳走を頂いています。中でもお母さんたち手作りの餃子は食べ過ぎ注意なほどの美味しさ。また、餃子には春節ならではの仕掛けとして、硬貨を入れた餃子を食べた人は金運に恵まれるというものがあります。私の場合はまったく見つけられず、最後はみんなで大捜索の後に食べさせてもらいました。ある意味、金運を分けてもらったので運が良かったのかもしれない。

食事が終われば外に出て爆竹と花火。12時前後くらいから至る所で爆竹の音が響き、目の前では花火が上がります。邪気を追い払うとされる爆竹の音を聞くと、新たな年がやってきたなど感じるようになっていきます(ただし、2018年の北京は第五環状線より内側のエリアは爆竹が全面禁止に…。少しさみしくも、静かな年越しとなりました)。いずれにしても日本式を含めて、一年に2回の年越しができる中国生活はなんだかお得な気がしています。



## キーワード・東北の春節！

倅同 (Webディレクター、遼寧省瀋陽市出身)

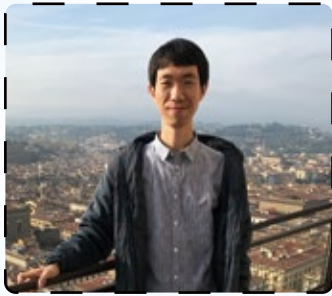
白い雪に赤い提灯、街中が可愛らしい装いになる、東北の春節ならではの景色です。とっても寒いので、街を往く人々は毛皮や厚みのあるダウンコートに身を包んでいます。そんな中国東北地方の春節の特徴を、2つのキーワードからご紹介します。

【酸菜】その名の通り、酸っぱい味の野菜の漬物です。東北では昔、冬の時期の食料保存が難しかったため、甕(かめ)に入れた水に白菜を漬けて発酵させるようになりました。この発酵した白菜が「酸菜」です。酸菜を肉などと一緒に煮込むと、酸味のある鍋のベースにな

ります。春節の食卓に欠かせない一品です。

【複雑なお掃除のルール】東北では「旧正月の初日と2日目は掃除をしてはいけない」と言われています。それは、神様が降臨する期間に箒(ほうき)を使うと、幸運や金運まで掃き出してしまうからです。3日目からは軽いお掃除になりますが、外へのゴミ捨ては駄目です。なので、溜まったゴミなどは、5日目に一気に出します。商売人たちがお店に出勤して、お掃除をしてから営業を開始するのも、この5日目です。





## 北京っ子の楽しみは各地の「廟会」

齊鵬（アナウンサー、北京市出身）

北京市民にとっての春節の楽しみは、大晦日の夜の餃子や爆竹、そして何より廟会（縁日）に行くことです。

北京では寺院や公園など、毎年10カ所以上で廟会が行われています。北京ならではの屋台料理が食べられるほか、伝統芸能の出し物を見たり、輪投げなどのゲームを遊んだりすることもできます。日本のお祭りみたいなイメージですね。私が特におすすめ

するのは、白雲観と石景山遊楽園の廟会です。

白雲観は北京最大の道教のお寺。正門には小さなサル模様の彫刻が施されており、そのサルに触れると一年間病気をしないとされています。なので、毎年春節の時期にはいつも大勢の人が集まります。無病息災を祈る人々でごった返す中、みんな必ずサルに触ってから門をくぐっています。

一方の石景山遊楽園は、西洋式の遊園地ということもあり、毎年「西洋風の廟会」を開催することで有名です。世界各国のグルメ、芸術公演、それにパレードも楽しめるフェスティバルのよう。特に若者に大人気です。

皆さんも、春節期間に北京に来られる際には、いろいろな廟会に足を運んでみてくださいね。



## ふるさとの春節、シェ族の春節

藍映芹（ニュースデスク、浙江省麗水市出身）

私は、長江デルタ以南に位置する浙江省麗水市遂昌県の生まれです。故郷を離れてもう30年近くになりますが、この時期になると地元の春節を思い出します。まず、春節の食卓に欠かせないのが、赤と緑の2種類のお餅です。赤は、甘酒とお米で作ったお餅に食紅を塗った「發糕」。緑は、ヨモギとお米で作った「青糕」。その自然な香りと柔らかな食感が、今の私を形作ってくれたようにさえ思えます。ヨモギを採った野原、足踏み式の大きな餅つき機、蒸し上がった餅に丁寧に食紅を塗る祖父の横顔…。すべてが忘れられない、ふるさとの記憶です。

もう一つ、私の民族・シェ族の春節の習慣を特別にご紹介しましょう。春節の日、つまりお正月の1日目には、女性が家事などの一切をお休みします。代わりに男性が早起きしてドアを開け、爆竹を鳴らし、ご飯の支度をするのです。昔から、農村に暮らすシェ族の女性は一年中、野良仕事と家事の両方をこなしていました。一方で、男性がするのは野良仕事だけ。ですから、新年だけは男性が女性に感謝の気持ちを込めて全ての家事をやるのです。感謝の気持ちを忘れない習慣を作った先祖の知恵に、思わず敬意を覚えます。



## 中日交流カフェ

# 中国の学生が日本の知識を競う 「笹川杯2017」上海で開催

中国全土の学生が集い、日本の知識を競い合うクイズ大会「笹川杯全国大学日本知識大会2017」が12月10日に上海交通大学で開催されました。

2004年にスタートし、今回で13回目となる同大会。当日は上海市人民代表大会常務副主任で上海交通大学党委員会書記でもある姜斯憲教授をはじめ、両国関係者が多数参加する中、全国56の都市から116大学、約500名の学生が出場し、大会規模は過去最大となりました。



▲団体戦の様子



▲上海交通大学図書館の陳進館長による挨拶

開会式ではまず、上海交通大学図書館の陳進館長が同大学を代表して挨拶に立ち、笹川杯を「国内の日本語学習者が毎年楽しみにする祭典」と評価した上で「参加学生が能力を発揮し、大会を通じて新しい知識を身につけ、新しい友達を作ることができるよう期待している」と呼びかけました。続けて、日本科学協会の大島美恵子会長が主催者側を代表して挨拶し「相互理

解には相手を知るとともに、自分を知ってもらう必要がある」とした上で「この知識大会もそのような交流イベントの一環。『知識から理解へ、理解から友好へ』をモットーに、若者の中から友好ムードを上げたい」と示しました。

決勝戦は個人戦8名、団体戦9大学(各チーム3名)で行われ、「毎年5月に『三社祭り』が行われる神社はどこ? (正解:浅草神社)」といった日本文化に関する問題や、「2017年8月に北海道札幌市でサービスを開始した中国のシェア自転車サービスの会社は? (正解: Mobike社)」といった両国の時事問題などを巡って、日本語による知識比べが展開されました。

接戦の末、個人戦では上海交通大学の王若平さんが一等賞に、団体戦では最高賞である特等賞に重慶三峡学院が入賞し、個人戦と団体戦の上位計18名の選手が、日本科学協会により2018年実施の日本見学ツアーに招待されました。



▲日本科学協会の大島美恵子会長から表彰を受ける個人戦一等賞の王若平さん(上海交通大学)

団体戦特等賞に輝いた重慶三峡学院の梁麗莉先生は「この受賞は学生一人一人の努力によるもの」と謙遜ながらも、歴史や文学、アニメといったそれぞれの得意分野を生かすチームワークを強調してきたことを明かしました。一方、3人の学生は口々に「先生の指導がなければ入賞できな

かった」と語り、その中の一人、李曉霞さんは「指導の中で梁先生の熱意を感じた。私も大学院に進学し、日本語教師を目指したい」と話してくれました。



▲団体戦特等賞の重慶三峡学院  
左から李思潔さん、梁麗莉先生、李曉霞さん、陳資政さん

閉幕式では、大会を助成する日本財団の尾形武寿理事長が「中国の若い人たちに等身大の日本を知ってもらうことが、将来の日中友好の礎になると考えている」と話した上で、2018年大会は北京大学で開催予定であると明かしました。尾形理事長が「北京で会いましょう」と再会を呼びかけると、会場の学生たちから大きな拍手が湧き起こりました。



▲日本財団の尾形武寿理事長による挨拶

(取材・写真: 梅田謙)



## ラジオ「中日交流カフェ」 新担当のごあいさつ

ハイウェイ北京水曜日2時間目「中日交流カフェ」の新担当として劉非アナが徐々に番組復帰！2018年1月から劉非&梅田謙のコンビでお送りしています。

### 劉非アナより

王洋アナに代わって「中日交流カフェ」を担当させていただく、劉非です。日本語部で最も歴史が長く、リスナーさんと最も身近に交流できるこの番組を担当させていただけることを、大変嬉しく、光栄に思っています。

日本全国各地のリスナーから76年間支えられてきた「中日交流カフェ」では、今後も引き続き皆さんからのお便りを中心に、中国の最新情報や両国の交流の話題をお伝えしていきます。

日本人スタッフ・梅田謙さんと共に、情熱と真心を込めて番組作りに励みます！どうぞよろしくお祈りします。



▲左から梅田謙、劉非、謝東(ゲスト)、王洋

☆劉非アナが初登場し、王洋アナが最後に出演した1月2日放送の新年番組「キーワードチャイナ&交流カフェ・スペシャル」はCRI公式サイトで配信！

※新年番組の詳細は本誌29ページをご覧ください。

## 工学院大学孔子学院より ～その3「日中友好カラオケ大会」～

■ 高橋恵子

当コーナーでは、2017年5月をもってCRIを退職した高橋恵子アナウンサー(現・工学院大学孔子学院学院長)からのメッセージを毎号お届けしています。

CRI日本語部の新年番組と言えば「紅白歌比べ」。私達学院にも日中友好カラオケ大会があり、2017年は11月26日(日)に第6回大会を開催しました。

3人一組の団体戦。1回戦は各チーム1人ずつ、合計3曲歌います。2チーム終わるとその場で、どちらが勝ったかを判定。決勝に進んだチームは、3人で1曲を歌い優勝を争います。歌の上手さを競うと言うよりも、目的は日中友好交流。日本人は中国語で、中国人は日本語で歌い、1回戦で敗れたチームもステージ上で勝ったチームにエールを送るなど終始和やかな雰囲気でした。

そして、個人賞で最優秀歌唱賞に輝いた日本人は、なんと「紅白歌比べ」へゲストとして参加できる北京3泊4日の旅がプレゼントされます。今回は森まり子さんが選ばれ、番組収録に参加し大満足で帰国しました。日本語部のみんなの熱いおもてなしのお蔭です。非常感謝！

ところで、カラオケ大会を実施しますよと告知すると、歌いたい人は直ぐに集まるのですが、観客を集めるのは大変です。そこで、ロビーではパンダと一緒に写真が撮れる「パンダ写真館」、温泉旅館のスリッパを投げて最長記録を出した人は温泉ご招待という観客も楽しめる企画を用意したところ大好評！カラオケ大会終了後、感謝、感動と言うメッセージもたくさん届きました。何をやるのも準備は大変ですが、反響があるのはとても嬉しいことです。

今年、私達学院は10周年を迎えます。今から何をやるうか、ワクワクしています。乞うご期待！



■新語で知る中国事情

# キーワードチャイナ

■謝東

## 【年货】(nián huò) [名] 年越し用品

年越し用品。食べ物や料理の素材、着るもの、飾るもの、贈るものなどが含まれる。

旧暦のお正月は中国人にとって最も大切な祝日であることから、早くから「年货」を揃え始める。昔は交通が不便だったので、大体旧正月の10日前から買出しを始めた。昔の人は「年货」のための市を「年集(nián jí)」といい、一定の期間に一定の場所で色々なものを一括で購入していた。「年集」は旧暦の12月25日に行われるのが一般的。ちなみに、「年货」を買うことは「办年货」と動詞に「办」を使う。



## 【红包】(hóng bāo) [名] お年玉、おひねり、ご褒美

そもそもの意味はお年玉＝「压岁钱(yā suì qián)」。「お年玉」は赤い封筒に入れて子供に上げることから、「红包」と呼ばれるようになった。現在では、赤い封筒に入れて人にあげるお金は全て「红包」と呼ばれる。

また、日本のようにお正月に目上の方が目下の人にお年玉＝「红包」をあげる習慣が昔から存在する。地域によって、それが家族や親戚だけの間だけであったり、隣人や友人にもあげたり、警備員などにもあげたりとまちまちだ。現在では、「电子红包」、「微信红包」など、インターネット時代ならではの現金ではない電子マネーの「红包」も続々と登場している。



## 【拜年】(bài nián) [名] 年始のあいさつ回り

中国の伝統的習慣で、旧正月の初日、家族で出かけて親戚や友人などの家を訪ねてあいさつすることを言ったもので、あいさつの際に、目下の方が目上の人を拜むので、「拜年」と言う。

「拜年」は本来、大晦日の夜(新年の零時)から始まるもので、それより早いのは「拜早年」、また、旧正月10日以降のあいさつは「拜晚年」と言う。

他人の家を訪ねる時は、滞在時間は30分から40分が最適とされている。ただ最近では、「拜年」と言っても顔を合わさず、遠く住んでいる人への年賀状や電話のほか、Eメールや携帯電話のショートメッセージ、微信(WeChat)、映像などで「拜年」する人も増えている。



## 【春运】(chūn yùn) [名] 春節＝旧正月の帰省ラッシュ

「春运」は「春節運輸」の省略。春節前後の人の移動、またその期間のことを指す。

この「春运」は、人類最大規模の定期的な民族大移動と言われ、40日間にのべ30億人が移動するという。世界最大の定期的移動として、ギネスブックに登録されている。

鉄道当局には、1954年以降の「春运」の記録が残されており、当初は1日の旅客数は最高で90万人、期間は春節前後の15日間であった。「春运」が国民の関心事になったのは、1980年代以降、農家出身の人が都会へ出稼ぎに行くようになってからである。

現在では、窓口以外にも電話、ウェブサイト、スマートフォンのアプリなど、チケットを入手する手段は増えた。ただ航空券も含めて入手困難な状況には変わりはない。





# リスナーからのお便り



「かけはし」や番組へのご意見・ご感想をEメール、お便り、SNSなどでお寄せ下さい！  
E-Mail: riyubusns@126.com  
郵便(日本): 〒152-8691  
目黒郵便局 私書箱78号 宛  
郵便(中国): 100040  
中国国際放送局日本語部 宛

## 番組の感想

**■番組名: 新年特別番組・全般**  
**■愛知県春日井市 小笠原広行さん**  
「行く年来る年」では10大流行語で1年のおさらい。「交流カフェ・スペシャル」はトップバッターでのお便り紹介で、テンション上げ上げで良いお年玉!?(笑)になりました。毎年楽しみな「CRI紅白歌比べ」はあっ!!という間の1時間でした♪

**■番組名: 新年特別番組**  
**「カルチャーの夜」**  
**■三重県津市 川添充則さん**  
中国の「新・四大発明」では中国発のモバイル決済の、国際化の成り行きに目が離せないと感じました。また、多彩な少数民族の祝日巡りは、お正月にふさわしい話題でとても良かったです。少数民族独自の良き伝統が未永く続いて欲しいです。

**■番組名: 新年特別番組**  
**「ゆく年くる年」**  
**■茨城県常総市 高橋信浩さん**  
私の職場にも中国の方がおりますが、CRIの放送を聞いていると、日本語部の皆さんの日本語はさすがに上手で、とても凄いことだとつくづく感じます。  
それから、蘇州寒山寺の鐘の音、とてもよかったです。

**■番組名: 中日交流カフェ**  
**■神奈川県川崎市 及川三晶さん**  
このたび、王洋アナが「ハイウェイ北京」を離れることを聞いて驚いています。後日の番組で正式なご挨拶があるとのことですが、これまで我々リスナーに楽しいトークと充実した番組を提供して下さい、ありがとうございました。

**■番組名: 日本で実践!中国語**  
**■千葉県千葉市 富田敏明さん**  
中国のコンビニではお弁当の味付け等を、店員に尋ねる場面もあるのだということを初めて知りました。  
国土が広く、民族も数多くいるので、それぞれに、どうしても口に合わないような味付けもあるのでしょうか。

**■番組名: 中国メロディー**  
**■兵庫県明石市 矢倉徹也さん**  
戌年にちなんで「犬にまつわる物語と音楽」を聞き、犬は昔から人と一緒に暮らしてきた動物なのだと再認識しました。生活の上での重要な任務があって、現在のペットとは全く違うものだったのですね。

## 編者後記

大家、过年好!!(みなさん、新年おめでとうございます!)  
中国では旧暦のお正月・春節(今年は2月16日)から本格的な「新年」が始まります。今号では中国在住の日本人スタッフ3人と中国人スタッフ3人それぞれの春節の過ごし方を、特集としてまとめました。私たちからの「お年玉」のつもりで、読者の皆さんへお届けします。  
また、CRI日本語放送の新年番組と言えば、恒例の「紅白歌比べ」です。2014年からは一般の方々に出演して頂くコンテスト形式が続いておりましたが、今年は久々に、日本語部のスタッフが出演することになりました。ラジオを通して歌声をお届けしたように、『かけはし』の紙面でも当日の様子をシェアしています。会場の雰囲気と一緒に楽しんで頂けると嬉しいです。  
2017年度の『かけはし』は今号で一区切りです。そして迎えた2018年は、中日平和友好条約締結40周年に当たります。この記念すべき年に、一連の交流行事を通して両国の友好関係がさらに改善されていくことを期待しつつ、小誌もその一助となるべく、より楽しく読んでいただける雑誌作りを目指します。引き続き、応援のほどよろしくお願ひいたします。(趙雲莎)



## 新番組「チャイナビジョン2018」のご案内

中国の「今」を伝える人気番組「チャイナビジョン」が帰ってきました！

2016年に放送され、主に第13次五カ年計画(2016-2020年)に関連する経済・社会ニュースを取り上げた同番組が、装い新たに「チャイナビジョン2018」として毎週土曜日に放送中です。

2017年10月の中国共産党第19回全国代表大会開催以降、中国にはどのような変化が起きているのでしょうか。番組内で、詳しく紹介していきます。

### 中国の今を知るキーワード

第19回党大会以降、中国の特色ある社会主義は新たな時代を迎えました。そんな中国の今を紐解いていくキーワードに注目しましょう。

#### キーワード1 新時代の「変化」

1つ目の変化は中国が抱える社会的矛盾。これまでの発展と成長を経て、目下の問題は「より良い国民生活実現への需要」と「不均衡で不十分な発展」とのギャップになっています。

中国経済もまた、「スピードを追い求める段階」から「質の向上を目指す段階」へと転換しました。

#### キーワード2 新時代の「発展目標」

第19回党大会では新たな発展目標が定められました。それまでに達成した小康社会(いっぺんかゆとりのある社会)の全面的完成を土台に、目標の第一段階(2020年～2035年)では、15年間の奮闘を積み重ね、社会主義の現代化を基本的にも実現することを目指します。そして第二段階(2035年～今世紀半ば)では、現代化の基本的実現を土台に、さらに15年かけて中国を富強・民主・文明・調和の要素を備えた美しい社会主義現代化強国に築き上げることを目標にしています。

これらの変化や新たな目標により、中国社会には一体どんな変化が起こるのか？CRI日本語部のアナウンサーたちと一緒に検証していきましょう。

毎週土曜日の「チャイナビジョン2018」、お聴き逃しなく！

#### 番組情報

チャイナビジョン2018

毎週土曜日19:20より放送

過去の放送はCRI公式サイトでお聴きいただけます。

<http://japanese.cri.cn/781/2009/08/26/Zt1s145894.htm>





# 【新年番組配信のお知らせ】

## ～CRIからのハッピーニューイヤー2018～

2017年12月31日から2018年1月4日まで5日間連続でお送りしたスペシャル番組「CRIからのハッピーニューイヤー～2018～」の再放送を、春節期間中(2月15日～2月19日)に実施しました。「どちらも聴き逃してしまった!」「もう一度聴きたい!」という声にお応えして、いずれの番組もCRIホームページでいつでもお聴きいただけるようになっています。

中国人の庶民生活や、暮らしの急成長で感じること、最先端のチャイナトレンドから、奥深い成年の文化など……情報満載、魅力満点!CRIがお届けした新しい1年のスタートのひとときを、ぜひ繰り返しお楽しみください!

2018年新年番組特集ページはこちら!

<http://japanese.cri.cn/781/2017/12/21/Zt147s268129.htm>



### ■行く年来る年

2017年12月31日19:20

【春節再放送: 2月15日19:20ほか】

2017年に別れを告げ、2018年を展望する企画。新時代を迎えた中国で、これまでの1年間、より良い暮らしの実現に向けて、どのような取り組みや成果がみられたか。人々の実感を織り交ぜながらお伝えします。新年に寄せる庶民の期待とともにお届けします。

(担当: 王小燕、齊鵬)



### ■2018年度「CRI紅白歌比べ」

2018年1月1日 19:00

【春節再放送: 2月16日19:00ほか】

CRIのお正月番組と言えば、「紅白歌比べ」ですね。2014年の第37回大会から、一般の方々に出演していただきましたが、今年は大勢のリスナーのご期待に応えて、再び日本語部のスタッフが出演することになりました。ぜひご期待ください。番組担当は、白組キャプテンの星和明アナと赤組キャプテンで初登場するトントンのニューコンビでお届けします。

(担当: 星和明、トントン)



### ■「文化・生活」:カルチャーの夜

2018年1月1日 20:10

【春節再放送: 2月16日20:10ほか】

「～CRIからのハッピーニューイヤー!2018～」<カルチャーの夜>に、毎週月曜日の「ライフマガジン」を担当する劉叡琳アナと、毎週木曜日の文化系番組を担当する周莉アナが豪華ゲストを迎え、新時代に突入した中国の「新・四大發明」に迫ります。そして、木曜日の少数民族番組を担当する孟群アナと星アナが、多彩な少数民族の祝日巡りをお届けします。

(担当: 劉叡琳、周莉、孟群)



### ■「中国の旅」

2018年1月1日 21:10

【春節再放送: 2月16日21:10ほか】

中国と日本は、新年の風習が違います。観光業に詳しい梁華さんと鄒其興さんは、中国人を日本に連れて行って新年を過ごしたり、中国の春節の間に日本人観光客を案内したりしたことがあります。番組で、2人の経験を交えて両国の新年の過ごし方を詳しく説明します。

(担当: 任春生 ゲスト: 梁華・鄒其興)



### ■「キーワードチャイナ&交流カフェ・スペシャル～」

2018年1月2日 20:10

【春節再放送: 2月17日20:10ほか】

日本では年末にその年の世相を表す「漢字」の発表が恒例ですが、中国では「キーワード」(キーワード)で過ぎゆく1年の総まとめをすることが近年流行っています。今回のスペシャルでは、「キーワードチャイナ」でお馴染みの謝東アナに登場してもらい、厳選された2017年のキーワードを取り上げます。また、以前に中国語講座を担当していた劉非アナも久しぶりに加わり、レギュラー番組への復帰も狙うとか?さらに「中日交流カフェ」特別版としてリスナーの「2017年と2018年」もご紹介。どうぞお楽しみに!

(担当: 謝東、劉非、王洋、梅田謙)





■ SNSで観るCRI (各SNSプラットフォーム)



@CRI日语频道



CRI日语频道



CRI日语部



CRI日本語



@CRIJpn



YouTubeアカウント  
CRI日本語



CRIの人気番組をPodcastでも配信中!

iTunesや対応アプリから「CRI」で検索。

配信番組: CRIニュース、ハイウェイ北京、中国語講座 ほか

CRI日本語放送のアプリがついに配信開始! いつでもどこでも、最新の中国情報を手軽にチェックできます。ニュースや写真に音声番組、映像番組も簡単に視聴可能。さらに、北京の気になる観光スポットを360°写真で見渡す機能も! 「CRI日本語」アプリでリアルな中国を体感して下さい。



App StoreまたはGoogle Play Storeで「CRI日本語」で検索!  
Androidスマホの場合は左のQRコードからもアクセスできます。